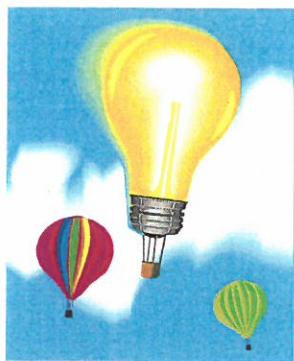
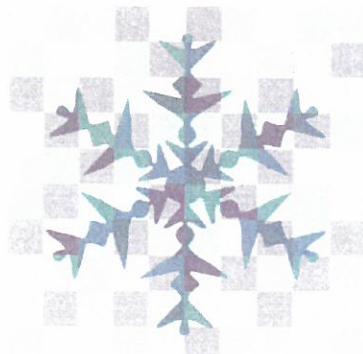


令和元年度

教育委員会の事務に関する点検評価報告書



令和2年3月

田 村 市 教 育 委 員 会

はじめに

教育委員会では、児童生徒の健全育成にかかわる学校教育はもとより生涯にわたって生きがいをもちよりよい人生を歩むための生涯学習の充実のほか、芸術文化活動の推進や文化財の保護、スポーツの振興など多岐にわたっています。これらの事業内容は、学校教育課、生涯学習課、教育総務課のほか、各地域の公民館等所属機関の職員が一丸となり、事務事業を分担して市民の皆様の負託に応えるべく業務にあたっているところですが、市民の皆様にその成果を周知していただくのは、大変難しいことであると感じております。幼稚園、小・中学校にお子様をお預けいただいている保護者の皆様にはお子様の様子を通して、生涯学習関連にかかわる事業についてはその関わりの中、それぞれご承知いただいている部分もあるうかと思いますが、取組の状況を発信する機会は部分的であります。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が平成19年に改正されて、事務事業の点検・評価並びに公表が義務づけられたことを受け、教育委員会としては、平成20年度から自ら事務事業を点検・評価するとともに外部評価を経て、評価結果を公表してまいりました。

制度の制定から12年目にあたり、改めて自らの事務事業をより一層厳しく点検・評価して積極的に公表し、ご批正をいただいた上で改善していく意を強くしたところであります。

令和元年度は「田村市教育大綱」の一部改訂を行い、教育委員会と学校との連携を密にするとともに、現場の状況に応じてフレキシブルに対応する体制のもと、実質的な成果が目に見えるように努力を重ねてまいりました。本報告書は、その取組の記録となる側面もあるものと考え、PDCAのマネジメントサイクルが機能するように工夫改善を加えて作成いたしました。市民の皆様には、点検・評価の状況をぜひご覧いただき、忌憚のないご意見をいただきまして、教育委員会の取組がより一層活性化するよう改善を加えてまいりたいと考えております。

教育委員会が市民の皆様にとりまして身近な頼りになる存在として感じていただけますよう努力してまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

令和2年3月

田村市教育委員会教育長 飯 村 新 市

目 次

| | |
|---|-----------|
| 指標目標 1－③(2)-1 : Q－U検査による学級満足度尺度及び学校生活意欲プロフィール | 20 |
| 指標目標 1－③(2)-2 : 教育相談体制における S C、心の教室相談員等の派遣実績 | 21 |
| 施策目標 1－④ : 「地域と共にある学校教育を実現します。」 | |
| 指標目標 1－④(1) : 開かれた学校づくり | 22 |
| 指標 1－④(1)-1 : 教育活動の積極的な公開 | 22 |
| 指標目標 1－④(2) : コミュニティ・スクール制度の導入 | 22 |
| 指標 1－④(2) : 常葉小中学校運営協議会推進委員会の設置と活動 | 22 |
| 指標目標 1－④(3) : 特色ある教育による学校の魅力向上 | 22 |
| 指標 1－④(2)-1 : 特別非常勤講師（地域素材）の活用実績 | 22 |
| 指標目標 1－④(4) : 地域や保護者との連携や協力 | 22 |
| 指標 1－④(4)-1 : 地域ボランティアの積極的活用 | 23 |
| 指標目標 1－④(5) : F 2 サミットの参加者 | 23 |
| 指標 1－④(5)-1 : 参加中学校及び生徒数、引率者、その他 | 23 |
| 指標 1－④(5)-2 : サミットの主な活動内容 | 23 |
| 指標 1－④(5)-3 : 参加生徒の声 | 23 |
| 施策目標 1－⑤ : 「教職員の資質の向上を図ります。」 | |
| 指標目標 1－⑤(1) : 教職員の指導力の向上 | 25 |
| 指標 1－⑤(1)-1 : 計画訪問等の実施状況 | 25 |
| 指標目標 1－⑤(2) : 服務倫理の確立と働き方改革 | 26 |
| 指標 1－⑤(2)-1 : 田村市立小・中学校の服務倫理委員会の開催状況及び内容 | 26 |
| 指標 1－⑤(2)-2 : 勤務の適正化 | 26 |
| 2 教育振興推進プログラムダイジェストⅡ（生涯学習課所管事業） | 28 |
| 施策 2 生涯学習の充実 | |
| (1) 施策目標 2－① : 「公民館の活性化を図ります。」 | |
| 指標 2－①(1)-1 : 市民のニーズを捉えた学級講座の企画 | 29 |
| 指標 2－①(2)-1 : 市民に愛される公民館づくり | 29 |
| (2) 施策目標 2－② : 「放課後子ども教室推進事業を推進します。」 | |
| 指標 2－②(1)-1 : 放課後子ども教室の円滑な運営 | 29 |
| 指標 2－②(1)-2 : コーディネーター及び指導員の育成と確保 | 29 |
| 指標 2－②(1)-3 : 放課後子ども教室の周知及び広報 | 29 |
| (3) 施策目標 2－③ : 「学校支援地域本部事業の推進を図ります。」 | |
| 指標 2－③(1)-1 : 学校支援地域本部事業の推進 | 31 |
| 指標 2－③(1)-2 : 地域の人材活用体制の整備 | 31 |
| 指標 2－③(1)-3 : 学校支援地域本部事業の周知及び広報 | 31 |

| | |
|-----------------------------------|----|
| (4) 施策目標 2-④：「図書館の機能を充実します。」 | 33 |
| 指標 2-④(1)-1：利用促進に向けた図書館資料及び機能の充実 | 33 |
| 指標 2-④(1)-2：子どもの強く生き抜く力を育むための読書活動 | 33 |
| 指標 2-④(1)-3：図書館事業の周知 | 33 |

施策 3 芸術文化活動の推進

| | |
|---------------------------------|----|
| (1) 施策目標 3-①：「多様な芸術文化活動を支援します。」 | 35 |
| 指標 3-①(1)-1：芸術文化活動への支援 | 35 |
| 指標 3-①(1)-2：質の高い自主文化事業等の実施 | 35 |

施策 4 文化財の保護と継承

| | |
|--|----|
| (1) 施策目標 4-①：「地域に遺された文化財の保存と継承を推進します。」 | 36 |
| 指標 4-①(1)：文化財の保存と継承 | 36 |
| 指標 4-②(1)：歴史民俗資料館の活用と文化財保存施設の整備 | 36 |

施策 5 スポーツ・レクリエーション活動の推進

| | |
|---|----|
| (1) 施策目標 5-①：「幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。」 | 37 |
| 指標 5-①(1)：運動公園内の施設によるスポーツ交流人口の拡大 | 37 |
| 指標 5-①(2)：田村富士ロードレース大会への推進と参加者拡大 | 37 |
| 指標 5-①(3)：ふくしま駅伝への参加並びに記録への挑戦 | 37 |
| 指標 5-②(1)：小中学生を対象としたスポーツ大会・講習会等の開催 | 37 |
| 指標 5-③(1)：指導者対象の研修会や講習会の開催 | 37 |

3 教育振興推進プログラムダイジェストⅢ（教育総務課所管事業） 40

施策 6 教育行政の円滑な推進と効率的運営

| | |
|------------------------------------|----|
| (1) 施策目標 6-①：「教育委員会の活性化を図ります。」 | 41 |
| 指標 6-①(1)-1：教育委員会の透明性を高める取組 | 41 |
| 指標 6-①(2)-1：教育推進プログラムの重点化と自己評価 | 43 |
| (2) 施策目標 6-②：「教育予算を効果的・効率的に執行します。」 | 43 |
| 指標 6-②(1)-1：田村市財政計画をふまえた効率的な予算執行 | 43 |
| (3) 施策目標 6-③：「人材育成を推進します。」 | 43 |
| 指標 6-③(1)-1：奨学金制度の効果的な運営 | 43 |
| 指標 6-③(2)-1：海外留学支援制度の推進 | 43 |

| | |
|--|----|
| (4) 施策目標 6-④：「教育環境の整備・充実を進めます。」 | |
| 指標 6-④(1)-1：教育活動の場にふさわしい環境の整備 | 44 |
| 指標 6-④(2)-1：児童生徒の安全な学校生活のための環境整備 | 44 |
| 指標 6-④(3)-1：児童生徒の通学支援 | 44 |
| (5) 施策目標 6-④：「教育効果を高めるための学校規模の適正化を進めます。」 | |
| 指標 6-④(1)-1：学校規模の適正化推進 | 44 |

III 外部評価委員より

IV 結びに

I 事務事業の点検及び評価の目的、実施方針

1 目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、田村市教育委員会の事務事業に関する管理及び執行状況について、教育に関する学識経験者の知見を活用して点検及び評価を行い、報告書を作成して議会に提出するとともに公表する。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 実施方針

- (1) 田村市教育委員会は、田村市教育大綱に示された事務事業について点検・評価結果をまとめること。
- (2) 田村市教育委員会は、田村市教育委員会外部評価委員会設置要綱に基づき、教育に関する学識経験者3名に外部評価委員を委嘱し、田村市教育委員会外部評価委員会を設置すること。（以下、外部評価委員会という）
- (3) 外部評価委員会は、田村市教育委員会が行う事務事業についての点検及び評価（内部評価）について、意見を述べ、評価を行う。（外部評価）
- (4) 田村市教育委員会は、内部評価並びに外部評価について報告書を作成し、議会に提出するとともに公表すること。

II 主な施策と指標

1 学校教育の充実

☆：学びきらめきプロジェクト事業

① 確かな学力を育成します

(1) 学力向上の支援

- 主体的、対話的で深い学びの実現
 - 「授業スタンダード」の活用
 - 「活用力育成シート」の活用
 - 教員の授業改善促進
- 学習習慣の確立
 - 「田村っ子」家庭学習の手引の活用
 - 「家庭学習スタンダード」等の活用
- 連携型保幼・小・中一貫教育の推進
 - 幼小中連携ステップアップ事業
 - 小中一貫カリキュラムの共有
 - はぐみステップ・スタートカリキュラムの充実
- 複式学級指導の充実
 - 複式学級指導支援員の配置

(2) 英語が使える人材育成

- 国際社会に対応した外国語教育
 - ALTによる外国語授業の充実
 - 中学生夏季英語研修
 - 中学生海外派遣研修事業
 - English School Bus事業(☆)

(3) ICT教育の充実

- プログラミング教育の推進
 - プログラミング的思考の育成
- ICT教育環境の整備
 - タブレット端末の配置と活用(☆)

② 規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します

(1) 道徳教育の充実

- 「特別の教科 道徳」授業の充実
 - 道徳教育推進委員会の活性化
 - 地域素材や人材の活用
 - 行動や心の指針の共有
 - 「田村っ子のルール10」の実践
 - 「児童生徒 心の誓い」(仮称)の策定

(2) 読書活動の推進

- 読書意欲の向上
 - 巡回学校司書の活用(☆)
 - 校内ビブリオバトルの開催(☆)

(3) 体力・運動能力の向上

- 体力向上策の推進
 - 「運動身体づくりプログラム」の実践
 - 田村市小学校陸上競技大会
- 健康教育の推進
 - 放射線・防災教育の充実
 - 外部防護師の活用
 - 食育授業の充実
 - 肥満や嗜好（しょく）の予防
 - 栄養教諭の授業支援
 - 健康教育教室の充実
 - 薬物乱用防止教室等の開催

③ 個に応じた教育を推進します

(1) 特別支援教育の充実

- 個に応じた学習支援
 - 特別支援教育支援員の適切な配置
 - 特別支援教育支援員の研修
 - 「サポネット田村」運営の充実
 - サポネットファイルの活用
 - ケース会議の支援
 - 啓発セミナーの開催
 - 就学前児への早期相談
 - こども未来課との連携
 - 「すくすく教室」との連携

(2) 実効ある生徒指導の推進

- 学校生活への適応指導の充実
 - 学級生活度満足度(Q-U)調査
 - 小・小連携・小・中連携交流事業
 - 異校種間の引き継ぎ支援
- いじめ、不登校への迅速な対応
 - 市「いじめ防止等に関する条例」
 - 心の教室相談員の配置
 - SC, SSW派遣事業の活用
 - 生徒指導 学校訪問

④ 地域と共にある学校教育を実現します

(1) 開かれた学校づくり

- 教育活動の積極的な公開
 - 学校便りやホームページの活用
 - 「学校へ行こう週間」
 - 学校評価による学校運営の充実
 - 学校関係者評価の推進

(2) コミュニティ・スクール制度の導入

- 学校運営協議会（学園型）の設立
 - 学校運営協議会規則の制定
 - CS準備委員会の研修(☆)

(3) 特色ある教育による学校の魅力向上

- 総合的な学習の時間による地域学習
 - 地域素材による地域理解
 - 地域人材によるキャリア教育

(4) 地域や保護者との連携や協力

- 地域ボランティアの積極的活用
 - 学校支援活動事業との連携
 - 学習支援ボランティアの活用
 - 危機管理情報伝達体制の整備
 - 緊急時「eメッセージ」メール配信システム
 - 児童生徒のまちづくりへの参画
 - 田村市こども議会
 - 中学生F2サミット(☆)

⑤ 教職員の資質向上を図ります

(1) 教職員の指導力向上

- 学校訪問等による授業力向上の支援
 - 計画訪問・要請訪問
 - 学校支援指導主事による学校訪問
 - 課題研究による指導力の向上
 - 学力向上推進委員会の活性化
 - 先進県研修派遣と専門研修派遣(☆)
 - 学校教育指導委員による個人課題研究
 - 小中連携による中学校区授業研究会
 - 専門研修の充実
 - 学びきらめき教員研修会(☆)・幼稚園教諭等研修会
 - プログラミング教育研修会
 - 養護教諭研修会
 - 英語担当者・ALT合同研修会
 - 常勤講師研修会

(2) 教職員服務倫理の確立と働き方改革

- 不祥事根絶
 - 校内相談体制の構築
 - 服務倫理委員会の充実
 - 勤務の適正化
 - 勤務実態の把握
 - 勤務適正化への支援

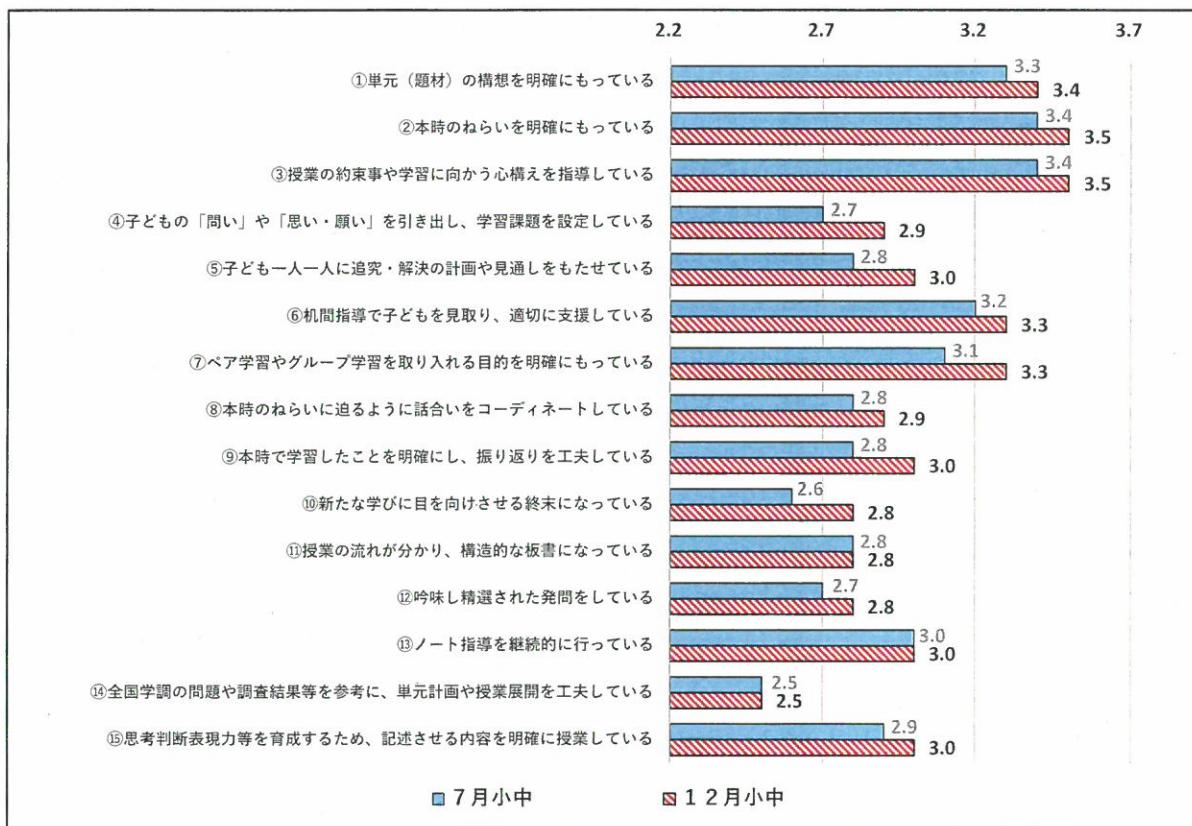
参考 : 施策指標の達成状況

【指標 1-①(1)】学力向上の支援

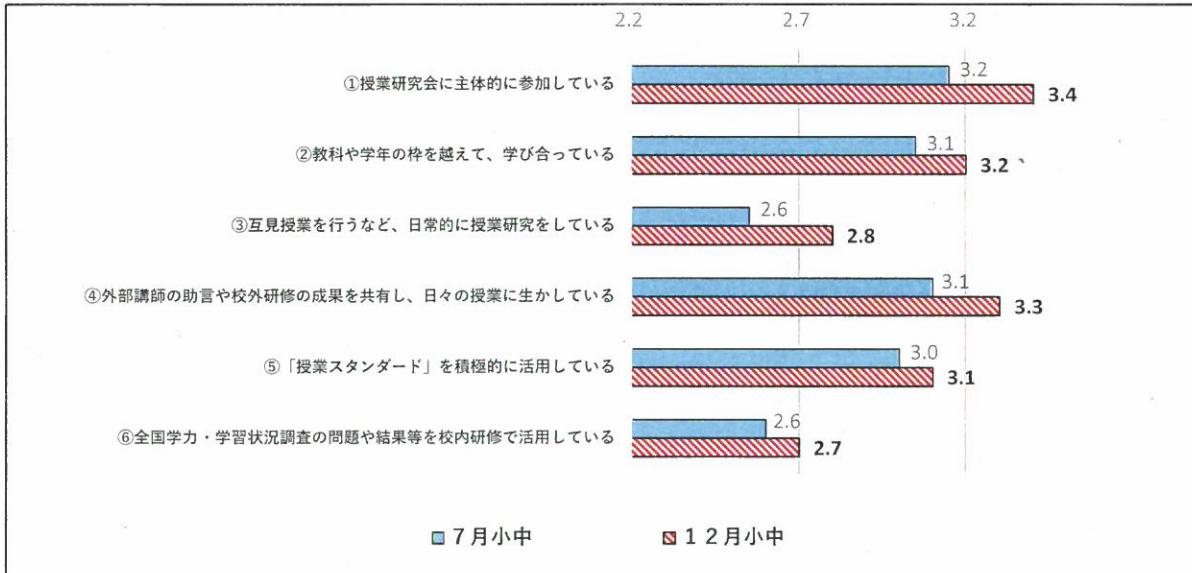
1. 「授業スタンダード」アンケート調査結果（田村市立小中学校）

<授業の充実のために（田村市内小中学校平均）>

4: よくできている 3: できている 2: あまりできていない 1: 全くできていない



<校内研修の活性化のために（田村市内小中学校平均）>



令和元年 7月、12月実施

〈考 察〉

□ 7月と比較すると「授業の充実のために」15項目中12項目、「校内研修の活性化のために」6項目全てにおいて向上が図られている。

■改善を要する項目

<授業の充実のために>

⑩「新たな学びに目を向けさせる終末になっている」⇒まとめと振り返りの充実及び学びの連続性を意識した授業の推進。

⑪「授業の流れが分かり、構造的な板書になっている」⇒板書計画による授業の流れや指導ポイントを明確にした授業の推進。

⑫「吟味し精選された発問をしている」⇒「問い合わせ」「思い・願い」の引き出し、課題追究・解決への導き、新たな学びへの意欲付け等を意識した授業の推進。

⑭「全国学調の問題や調査結果等を参考に、単元計画や授業展開を工夫している」⇒ P D C A サイクルの有効活用。

<校内研修の活性化のために>

③「互見授業を行うなど、日常的に授業研究をしている」⑦「全国学力・学習状況調査の問題や結果等を校内研修で活用している」⇒計画的、継続的な校内研修の実施。

□子どもたち一人一人が主体的に課題に向き合い、よさを發揮しながら解決し、自信を深め、また新たな課題を見出し解決しようとする⇒そんな姿を目指し、今後とも「確かな学力」の育成に向けて今後とも授業力の向上に努めていく必要がある。

□授業における新しい改善策を加え取組を継続していく。

2. 学力の定着度

平成30年度まで実施していた「田村市学力実態調査」(教研式全国標準学力検査)(小1～中2、1月実施)を見直し、今年度から「田村市標準学力調査」(標準学力調査：東京書籍)を実施することにした。

(1) 実施学年及び教科

○小学校1～6年：国語、算数

○中学校1～2年：国語、数学、英語

※ 問題は、毎年問題を入れ替える全面改定版を採用。

(2) 実施計画

○実施時期 令和2年1月30日(木)～2月6日(木)

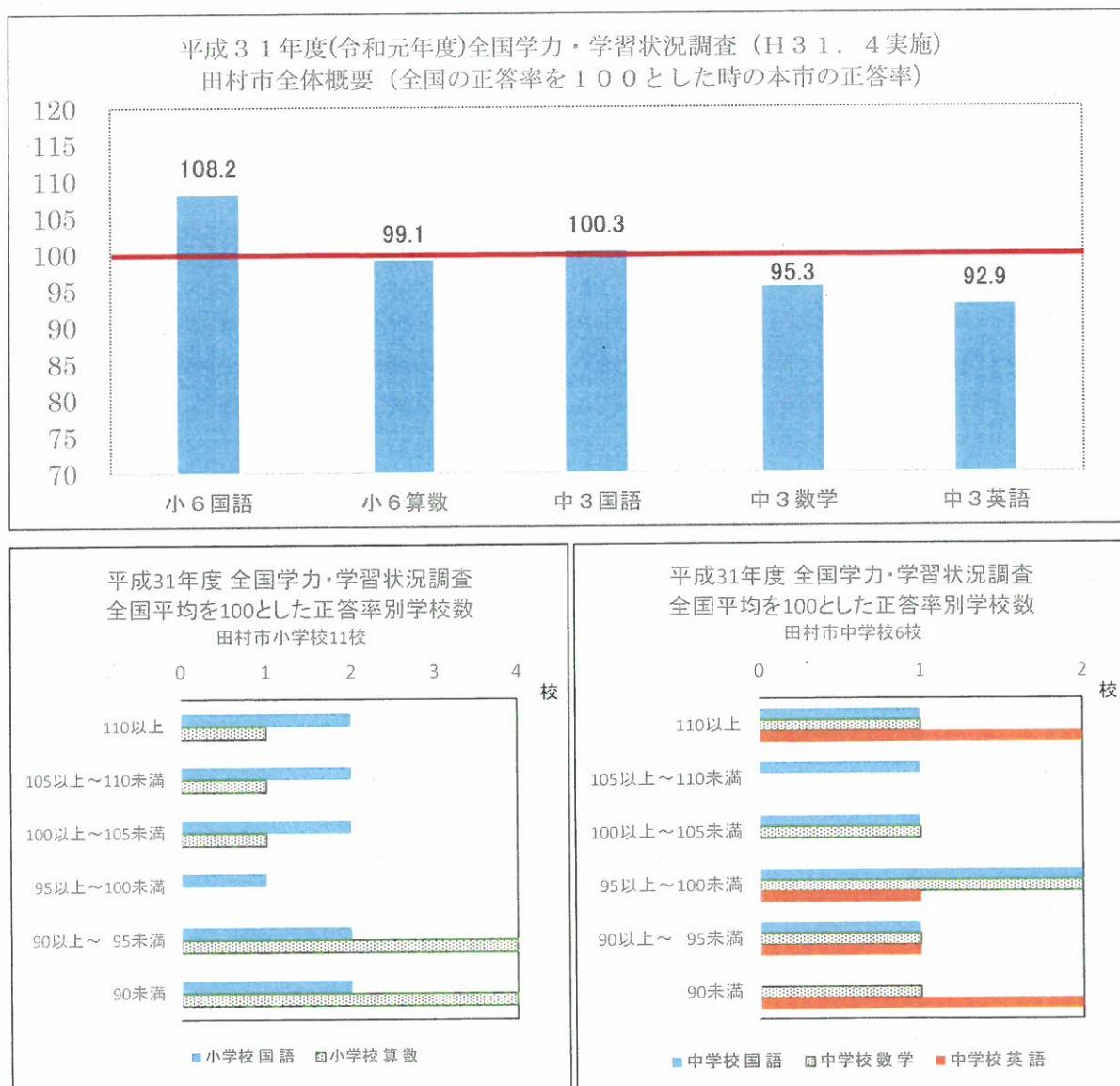
(3) 実施後の取組

○3月9日(月)以降に届く結果により、補充指導を実施する予定であったが、今年度は、市内すべての小中学校が3月4日(水)より、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業に入ってしまったため、新年度に補充指導を行い、学力の定着を図る。

○標準学力調査結果の分析を行い、課題を明確にして、その改善に向けた具体策を立案し、共通理解のもとに学習指導の改善・充実を図る。

3. 学力の定着度（2）「全国学力・学習状況調査」（小6・中3、4月18日実施）

（1）平均正答率による全国との比較



<考察>

本市の結果の概要については、上の表及びグラフのようになる。小学校においては、国語は全国および県平均を上回ったが、算数は、ほぼ同じである。昨年度までと比較して、算数の正答率はほぼ変わらないが、国語については、正答率が向上した。

中学校においては、国語は全国および県平均とほぼ同じであったた、数学と今年度初めて実施された英語では、全国平均を下回った。国語、数学とも、昨年度と同じ傾向の結果であり、数学は「関数」および「資料の活用」、英語は「書くこと」の領域に特に課題が見られた。

学力向上には、毎日の学習の積み重ねが重要であり、教育委員会としては、今回の調査結果の分析を丁寧に行い、すべての教員が児童生徒一人一人に応じた適切な指導が行えるよう、授業改善にさらに力を入れていきたいと考える。

【指標1－①（1）】 複式学級指導の充実

1. 本市の複式学級の状況

（※複式学級になる条件：1、2年は合わせた人数が8名以下、2年生以上は隣接した学年と合わせた人数が16名以下のとき）

| 学校名 | 学年人数 | 学年人数 | 合計 | 県からの加配 |
|-------|------|-------|-----|--------------|
| ① 都路小 | 5年6名 | 6年7名 | 13名 | 復興推進加配の配置 |
| ② 背沢小 | 2年5名 | 3年10名 | 15名 | |
| ③ 同 | 5年3名 | 6年8名 | 11名 | 複式補正補充教員1名配置 |
| ④ 美山小 | 3年7名 | 4年7名 | 14名 | なし |
| ⑤ 緑小 | 3年9名 | 4年4名 | 13名 | |
| ⑥ 同 | 5年7名 | 6年7名 | 14名 | なし |
| ⑦ 瀬川小 | 3年7名 | 4年5名 | 12名 | |
| ⑧ 同 | 5年5名 | 6年9名 | 14名 | なし |
| ⑨ 要田小 | 2年6名 | 3年9名 | 15名 | |
| ⑩ 同 | 5年4名 | 6年12名 | 16名 | 複式補正補充教員1名配置 |

※ 市内6校10学級が複式学級であるが、都路小については復興推進加配補充教員が配置され、単独で指導をしているため、実質9学級となる。

2. 複式学級指導支援員の配置状況

（1）複式学級指導支援員の配置状況

| 学校名 | 学年人数 | 学年人数 | 合計 | 市の配置 |
|-------|------|------|-----|------------|
| ① 美山小 | 3年7名 | 4年7名 | 14名 | 1名（元小学校教諭） |
| ② 緑小 | 3年9名 | 4年4名 | 13名 | |
| ③ 同 | 5年7名 | 6年7名 | 14名 | 1名（元小学校教諭） |
| ④ 瀬川小 | 3年7名 | 4年5名 | 12名 | |
| ⑤ 同 | 5年5名 | 6年9名 | 14名 | 1名（元小学校教諭） |

（2）活用方法

- 原則として週3日間の午前中（3～4時間）
- 国語や社会等の複式指導のしにくい教科の授業
- 複式指導における担任のサポート
- 採点等の担任業務の分担

〈考 察〉

県からの補正教員が配置されていない学校に対し、一人を配置したことによって、指導の充実が図られた。児童にとっても、困ったときに質問ができる教員がいるため、安心感を持って授業に臨むことができ、学力の向上につながっている。

教員免許のある方が必要なため、人材確保が課題となっている。

【指標1－①(2)】英語が使える人材育成

1. 外国語指導助手の派遣実績（単位：回）

| 学校名 | 令和元年度 | 学校名 | 令和元年度 |
|------|-------|------|-------|
| 滝根小 | 44 | 滝根中 | 158 |
| 大越小 | 40 | 大越中 | 161 |
| 都路小 | 52 | 都路中 | 129 |
| 常葉小 | 49 | 常葉中 | 141 |
| 芦沢小 | 41 | 船引南中 | 114 |
| 船引南小 | 41 | 船引中 | 482 |
| 船引小 | 82 | 合 計 | 1185 |
| 美山小 | 39 | | |
| 緑 小 | 40 | | |
| 瀬川小 | 41 | | |
| 要田小 | 36 | | |
| 合 計 | 505 | | |

2. その他の取組

(1) 中学生夏季英語研修（中学生サマーアイラングリッシュキャンプ）

- ・期 日 7月27日（土）、28日（日）
- ・会 場 スカイパレスときわ

参加を希望する中学生を対象に、早稲田大学国際教養学部の学生と英語指導助手を講師として、1泊2日の英語研修を行った。参加した生徒は、英語の研修を通しながら、自己を見つめ、自分の殻を破り表現することの大切を学んだ。また、英語指導助手や異国籍、異年齢の大学生、他校生との交流は、生徒の社会性を育むためにも効果的であった。

(2) 中学生海外派遣研修事業

- ・期 日 9月30日（月）～10月8日（火）までの9日間
- ・派遣先 田村市姉妹都市アメリカ・オハイオ州マンスフィールド市、他

派遣希望者の中から面接等により選考された市内中学生22名は、7月から事前研修を行い、9月30日からアメリカ・オハイオ州マンスフィールド市を中心に、地元の学校との交流やホームステイなどを通して、研修を行った。派遣研修による体験を通して、日本人としての自覚や責任、誇りを高めたとともに、英語力の必要性を感じたり、国際的視野を広げたりすることができた。また、11月8日（月）には、田村市役所107多目的室にて報告会を実施した。

＜考 察＞

- 小学校1年生から、英語指導助手とふれあいながら外国語にふれる活動を実施することにより、英語でのコミュニケーションの楽しさを味わう活動の充実が図られている。
- 中学生対象の英語研修は、英語学習に対する意識が高い生徒が参加しているため、効果的である。研修のあり方や方法を模索し、さらに多くの生徒に対して効果的な研修を推進していく。

【指標 1-①(3)】ICT教育の充実
各学校へのタブレット端末の導入状況

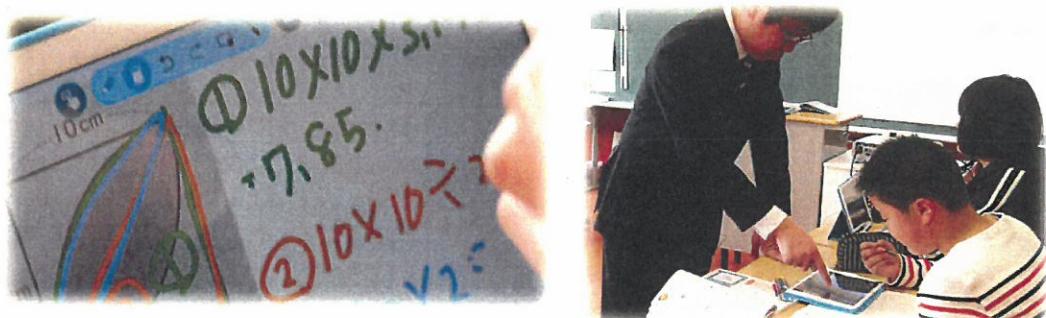
| 平成30年度 | 令和元年度 | 合計 | 導入率 |
|--------|-------|------|-------|
| 4校 | 13校 | 17校 | 100% |
| 114台 | 501台 | 615台 | 4人に1台 |

〈考察〉魅力ある教育の実現と情報を活用した効果的な学びの実現のため、福島県内初となるLTEタブレット端末（※1）を導入し、現在は615台のタブレットを活用している。平成30年度にICTモデル校での実証や効果を見極めながら順次増台してきた。

LTEタブレット端末は、校舎内に限らず校庭などの屋外でも使用できることから、幅広くあらゆる授業で活用することができ、また、修学旅行などで活用する学校もあった。

教室の雰囲気も変わり、児童生徒の考え方を可視化することやお互いに共有することができるようになったことで、手をあげて発言することが苦手だった児童生徒も、タブレットで共有することで、学習への積極性が見られるようになった。

※1 LTEタブレット端末・・・携帯電話の回線を利用して通信するタブレット。携帯電話通信エリア内であればどこでも使用ができ、安定した通信が可能



【指標 1-②（1）】道徳教育の充実

道徳教育指導状況〔福島県道徳教育実施状況調査〕

令和2年1月実施

〔R1 指導の重点1〕実効性ある指導計画等の作成と学校全体の推進体制の確立

1 道徳教育の全体計画への「いじめ防止対策推進法」の位置付けについて

| 全体計画への「いじめ防止対策推進法」の位置付け（明示） | 小学校数 | 中学校数 |
|-----------------------------|------|------|
| ① 位置付け（明示し）ている。 | 11 | 6 |
| ② 位置付け（明示し）ていない。 | | |

2 道徳教育全体計画の「別葉」（様式は任意）について

(1) 作成の有無について

| 「別葉」の作成状況 | 小学校数 | 中学校数 |
|-------------------|------|------|
| ① 作成している。 | 9 | 5 |
| ② 今年度中に作成する予定である。 | 2 | 1 |
| ③ 作成する予定はない。 | | |
| ④ その他（ ） | | |

(2) 活用の有無について

| 「別葉」の活用状況 | 小学校数 | 中学校数 |
|-----------------------------|------|------|
| ① 成果や課題などを記入して活用している。 | 3 | |
| ② 記入はしていないが確認をするなどして活用している。 | 8 | 6 |
| ③ 活用していない。 | | |
| ④ その他 | | |

3 教科書教材以外の副教材の活用について

(1) 副教材の年間指導計画への位置付けについて

| 年間指導計画への位置付け | 小学校数 | 中学校数 |
|--------------------------|------|------|
| ① 各学年において、1～3時間位置付けている。 | 7 | 4 |
| ② 各学年において、4～6時間を位置付けている。 | 4 | 1 |
| ③ 各学年において、7時間以上を位置付けている。 | | 1 |
| ④ 位置付けていない。 | | |

(2) 年間指導計画へ位置付けた副教材の種類について

| 年間指導計画へ位置付けている副教材の種類 | 小学校数 | 中学校数 |
|----------------------|------|------|
| ① ふくしま道徳教育資料集 | 11 | 6 |
| ② 「わたしたちの道徳」等文科省著作資料 | | 3 |
| ③ 市町村発行の指導資料 | 7 | 1 |
| ④ その他 | 1 | |

(3) ふくしま道徳教育資料集の活用について

① 活用の有無について

| 活用状況 | 小学校数 | 中学校数 |
|------------------|------|------|
| ① 全学年で活用した。 | 6 | 5 |
| ② 一部の学年で活用した。 | 4 | 1 |
| ③ これから活用する予定である。 | 1 | |
| ④ 活用する予定はない。 | | |

② ふくしま道徳教育資料集の年間指導計画への位置付けについて

| 年間指導計画への位置付け | 小学校数 | 中学校数 |
|----------------------------|------|------|
| ① 各学年において、概ね1時間を位置付けている。 | 1 | |
| ② 各学年において、概ね2時間を位置付けている。 | 5 | |
| ③ 各学年において、概ね3時間以上を位置付けている。 | 5 | 6 |
| ④ 道徳科の授業以外の教育活動に位置付けている。 | 1 | |
| ⑤ 位置付けていない。 | | |

③ 活用の場面について

| 活用場面 | 小学校数 | 中学校数 |
|-----------------------|------|------|
| ① 道徳科の授業に活用した。 | 11 | 6 |
| ② 道徳科の授業以外の教育活動で活用した。 | 4 | |
| ③ 家庭学習等で活用した。 | | |
| ④ その他 | | |

〔R1指導の重点2〕多様な指導方法・指導方法の工夫及び家庭や地域との連携

4 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた道徳科の授業改善について

(1) 児童生徒の心に響く多様な指導方法への取り組みについて

| 多様な指導方法への取り組みについて | 小学校数 | 中学校数 |
|---|------|------|
| ① 教員は児童生徒の心に響く多様な指導方法を理解し、工夫して実践している。 | 8 | 3 |
| ② 教員は児童生徒の心に響く多様な多様な指導方法を概ね理解しているが実践できていない。 | 3 | 3 |
| ③ 教員の多様な指導方法への理解や取り組みはまだ不十分である。 | | |
| ④ その他 | | |

(2) 授業改善、指導と評価の一体化等を踏まえた校内研修の取り組みについて

| 校内研修への取り組みについて | 小学校数 | 中学校数 |
|------------------------------|------|------|
| ① 授業研究や評価の事例検討等の校内研修を行った。 | 9 | 6 |
| ② 授業研究や評価の事例検討等の校内研修を行っていない。 | 2 | |

(3) 担任以外の教員の道徳科授業への参加について

| 道徳（科）の授業の指導体制 | 小学校数 | 中学校数 |
|----------------------------------|------|------|
| ① 道徳科の授業に（を）、校長先生が参加した。（行った。） | 3 | 1 |
| ② 道徳科の授業に（を）、教頭先生が参加した。（行った。） | 3 | |
| ③ 道徳科の授業に（を）、担任以外の教員が参加した。（行った。） | 5 | 6 |
| ④ その他 | 4 | |

5 道徳科の授業参観（公開授業・保護者向け授業参観）について

| 授業参観の実施状況 | 小学校数 | 中学校数 |
|-----------------------------|------|------|
| ① 全学級実施した。（実施する予定である。） | 6 | 2 |
| ② 全学級ではないが実施した。（実施する予定である。） | 5 | 3 |
| ③ 実施する予定はない。 | | 1 |
| ④ その他 | | |

6 家庭や地域社会等との連携による道徳の指導について

| 連携による道徳の指導の実施状況 | 小学校数 | 中学校数 |
|----------------------------------|------|------|
| ① 保護者が授業に参加（参観のみは除く）した。 | 5 | |
| ② 地域の人々が授業に参加（参観のみは除く）した。 | 1 | |
| ③ 保護者や地域の人々以外の方をゲストティーチャーとして招いた。 | 4 | 2 |
| ④ ①～③などについて実施する予定はない。 | 1 | 2 |
| ⑤ ホームページや学級、学校便りで発信した。 | 8 | 4 |
| ⑥ その他（保護者アンケートを授業に活用。PTA総会で話題。） | 1 | 1 |

[R 1 指導の重点 3] 児童生徒の成長を受け止めて認め、励ます評価

7 道徳科の評価への取り組みについて

(1) 通知票への記載等について

| 道徳科の評価 | 小学校数 | 中学校数 |
|----------------------------|------|------|
| ① 通知表に、通年1回記載する。 | 6 | 4 |
| ② 通知表に、通年2回記載する。 | 5 | 2 |
| ③ 通知表に、通年3回記載する。 | | |
| ④ 通知表には記載していない。 | | |
| ⑤ 面談等を通じて、本人や保護者に伝える機会をもつ。 | | |
| ⑥ その他 | | |

(2) 評価のための資料を累積する方法について

| 道徳科の評価 | 小学校数 | 中学校数 |
|---------------------------|------|------|
| ① ワークシートを活用して累積している。 | 9 | 5 |
| ② ノートを活用して累積している。 | 8 | 2 |
| ③ 座席表を活用して累積している。 | 1 | |
| ④ 教科書の書き込み欄を活用して累積している。 | 7 | 3 |
| ⑤ 資料の累積を行っていない。 | | |
| ⑥ その他（内容：生徒のファイルに綴らせている。） | | 2 |

〈考察〉

○「特別の教科 道徳」として、小学校では昨年度、中学校では今年度より全面実施となった。登場人物の心情理解に終始したり、一方的な価値を押し付けたりするような授業から脱却し、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるなど、授業の質的転換が図られてきている。

○道徳教育推進委員会では、今年度から教科化として全面実施となる中学校で授業研究会を実施した。実際の授業を検証して行う研修は効果的であるが、小・中学校合同で行うことで、前年度から全面実施となっている小学校教員の助言や意見を聞く機会を設けられたことは大変有効であった。

○教科化となり、基本的には教科書を使って授業を行っていることもあり、地域素材や人材の活用については、さらに推進していく必要がある。

○今後もよりよく生きるための基礎となる道徳性を養い、いじめ防止をさらに推進していくため、質の高い「考え方議論する道徳」の実践のための支援を推進していく。

【指標 1-②(1)】道徳教育の充実

心の指針

【幼児・小学生・中学生向け】

田村の子 心の道標

| | |
|-------------------------|--------------|
| た：大切な命を守ります | (生命尊重・自然愛護) |
| む：結びます、人との強い絆を | (家族愛・友情・愛郷心) |
| ら：樂をせず、挑戦し続けます | (努力・向上心) |
| の：伸ばします、良い個性を | (個性の伸長) |
| こ：心優しく、思いやりのある子どもを目指します | (寛容・思いやり) |

[※()内の心の方向性を示す言葉は説明用に表記したもので、子どもたちには提示しません。]

行動の指針

【中学生向け】

田村の生徒 実践躬行 A to E 五則

A ctive learner 何事にも積極性を發揮します

B iblio & Newspaper 15min

15分間以上、本や新聞に親します

C onsideration 心遣いや思いやりを行動に移します

D isplay 1 hour ディスプレイは1時間以内を守ります

E njoy & Positive thinking

笑顔とプラス思考で生活します

注：「実践躬行」とは「自分自身の力で実際に進んで行動してみること」の意。

[※ 英語表記は「五則」を想起しやすくするための補助的表記です。]

【幼児・小学生向け】

田村っ子のルール 10

- 1 あいさつをしよう
- 2 はっきりとした声で返事をしよう
- 3 「ありがとう」と言おう
- 4 素直にあやまろう
- 5 きちんととかたづけよう
- 6 うそはつかない
- 7 相手の目を見て話そう
- 8 時間を守ろう
- 9 相手のいいところを見つけよう
- 10 はきものをそろえよう

《平成20年4月提示》

未来を担う人づくりのためには、子どもたちに「夢に向かって進みゆく活力」や「規範意識の高い社会性」を育てることが大切です。そのため、学校生活ばかりでなく日常生活の中でも、子どもたちが常に意識できる心の道標となるような言葉や自らが実践する行動規範となるような言葉が必要になります。子どもたち自身が意識するだけでなく、学校や家庭、地域等が協力して子ども達の心を育むための拠り所となることを願い、心の指針として「田村の子 心の道標」と、その心の表れとなる行動の指針として「田村の生徒 実践躬行 A to E 五則」を新たに設け、子どもたちに提示しました。

【指標 1-②(2)】 読書活動の推進

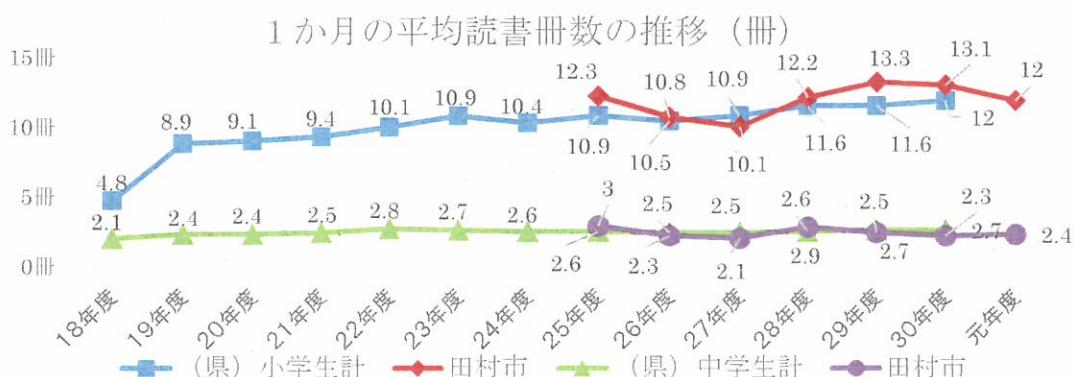
1 福島県読書に関する調査（小1～中3 11月調査）

(1) 学校図書館の利用促進(貸出目標)目標値及び参考値としての平成30年度・令和元年度読書に関する調査結果

| 項目 | | 目標値 (平成31年度) | 参考数値(1か月の読書冊数) | |
|------------------|--------|-----------------|----------------|---------|
| | | | 平成30年11月 | 令和元年11月 |
| 学校図書館の利用促進(貸出目標) | 小学校低学年 | 年40冊以上／人 | 17.7冊／人 | 16.4冊／人 |
| | 小学校中学年 | 年30冊以上／人 | 11.6冊／人 | 11.1冊／人 |
| | 小学校高学年 | 年20冊以上／人 | 10.1冊／人 | 8.6冊／人 |
| | 中学生 | 年10冊以上／人 | 2.3冊／人 | 2.4冊／人 |
| 平均 | | | 10.4冊／人 | 9.6冊／人 |

(一か月に児童生徒一人当たりが読んだ本の冊数市平均値)

(2) 読書に関する調査結果経年変化



※各学校における小学校1～6年生、中学校1～3年生の平均を算出

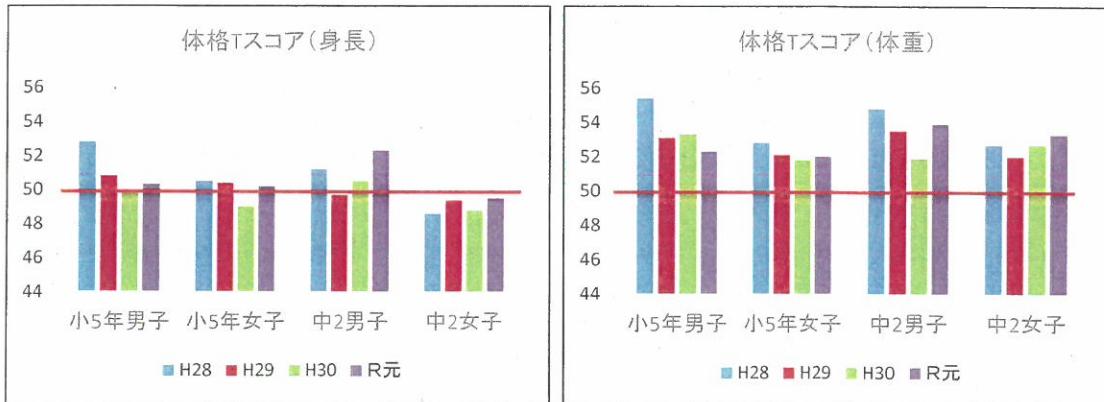
〈考 察〉

- 各学校において朝の読書や親子読書、家庭読書の日等の実践により、本を読む機会を意図的に設定し、読書推進を進めている。
- 小中学生一人あたりの一か月平均冊数は9.6冊である。これを1年間の読書冊数に換算すると115冊となる。
- 国語科で扱われる教材との並行読書や比べ読み、ブックトークなど、多様な読書活動を取り入れた読書指導を展開することで、読書の質の向上や興味関心の醸成に努めている。中学生は今年度全校においてビブリオバトルが開催された。次年度は、市の中学生ビブリオバトル大会を開催する予定であり、中学生の読書意欲をより高めたい。
- 学校図書支援スタッフの勤務日数を増やし、各学校における図書室の環境整備やビブリオバトルへの支援、児童生徒への読み聞かせ、ブックトーク等を行っている。今後も学校図書館の活用促進、及び読書活動の推進に向けて積極的に活用していく。

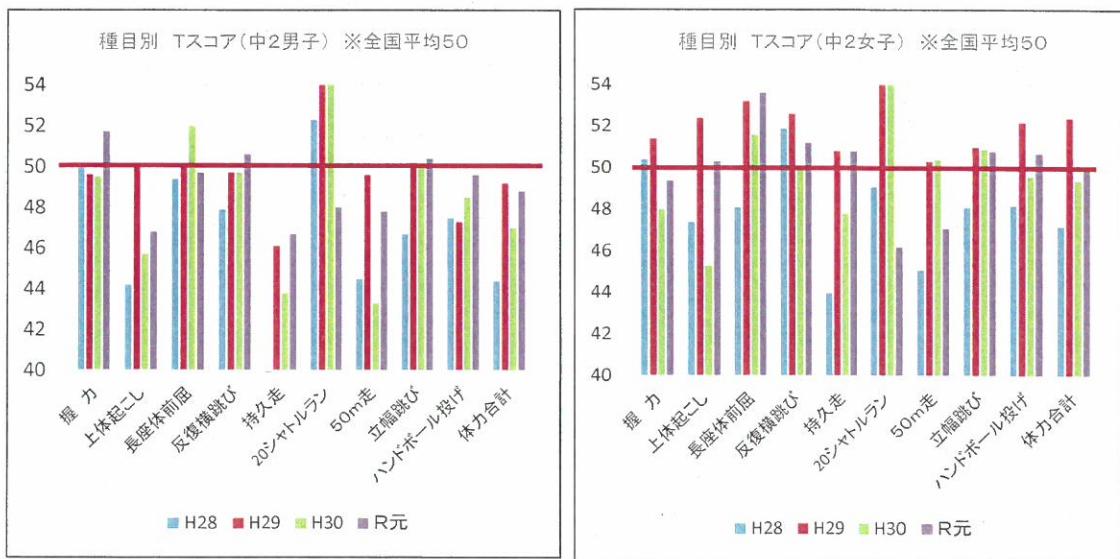
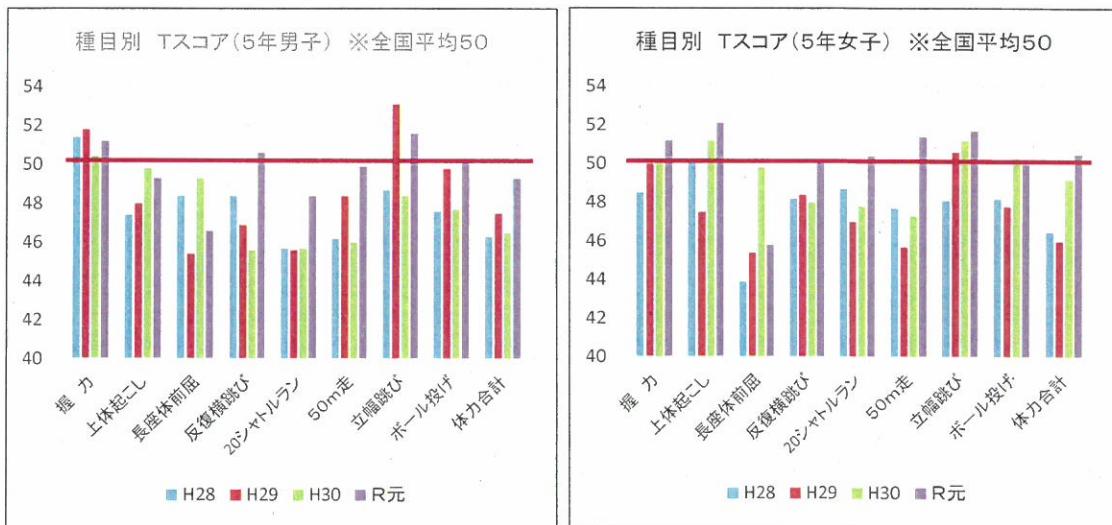
【指標1-②(3)】体力の向上の支援

1. 全国体力・運動能力調査における田村市の状況（全国平均値=50）

(1) 体格面



(2) 運動能力面



〈考察〉

- 小学生では、男女ともに身長に比べ、体重が大きく全国平均を上回っている。運動能力面においては全国比較で低い要素が多い。中学生でも男女ともに、体重が全国平均を上回っている。運動能力面については、向上している要素もあるが、走力に課題がみられる。年度毎の課題は多少異なるものの、小学校・中学校ともに筋力・筋持久力、全身持久力、スピード、筋パワーなどバランスよく向上させが必要である。
- 幼児期から小学校中学年においては、運動に対する二極化を防ぐこと、幼児期には、多様な動きを経験できるような遊びを工夫し、発達の特性に応じた遊びを経験させることが必要である。学童期においては、自己の体力・運動能力や健康への関心を高め、自ら進んで運動に取り組むことができるよう、「運動身体づくりプログラム」を活用し、動きたい体・動ける体づくりをさらに推進すること、学校行事等と関連させながら目標をもたせ、日常的に体を動かす機会を確保していくことが必要である。
- 小学校高学年以降においては、短距離走やハードル走などにおいて、スピードや筋パワーを高める運動を工夫して取り入れるとともに、マラソン、水泳など全身を使って長い時間運動する機会を設けて、心肺機能を高めていくことを、体育の授業や部活動に取り入れるようにしたい。

2. 各校の体力向上推進計画の実施状況

| | |
|-----------------------|--|
| 運動身体づくりプログラムの実施（小学校） | 小学校 11 校 全クラスにおいて実施 |
| 業間等を利用した運動の機会の確保（小学校） | <ul style="list-style-type: none">・朝（業間）マラソン・運動タイムの実施・陸上競技練習の工夫 |
| 部活動の改善と特設部の活動の工夫（中学校） | <ul style="list-style-type: none">・特設陸上部と駅伝部の活動時間と参加人数の確保・部活動でのランニングや体力（体幹）トレーニングの取組 |
| その他の体力向上の取組 | <ul style="list-style-type: none">・体育専門アドバイザーの活用・外部講師（陸上・ダンス）の活用・スポーツ笑顔の教室の活用・運動の楽しさを味わわせる体育授業の工夫・体育の合同授業と T T による指導・体育行事での個人目標の設定と練習機会の確保・体力・運動能力調査での個人結果の分析と活用・対外大会への積極的な参加奨励・指導力向上のための校内研修と校外研修会への参加・肥満傾向改善のための食育の実践 |

〈考察〉

- 小学校では、日課表に体力づくりの時間を設け、体育の日常化に取り組んだり、外部講師の活用や体育授業のTTなど、効果的な指導と指導力向上の取組が実施された。
- 中学校では、特設陸上部や駅伝部の練習に年間をとおして取り組んだり、選手以外の練習参加を奨励したりして、学校全体の体力向上に意識して取り組んでいた。

3. 小学校陸上大会の参加者数

| 大会名 | 実施日 | 会場 | 参加者数 |
|--------------------|----------|----------|-----------------------|
| 第15回市小学校 陸上競技大会 | 9月19日(木) | 田村市陸上競技場 | 6年生 277名 ※川内小 7名含む |

〈考察〉

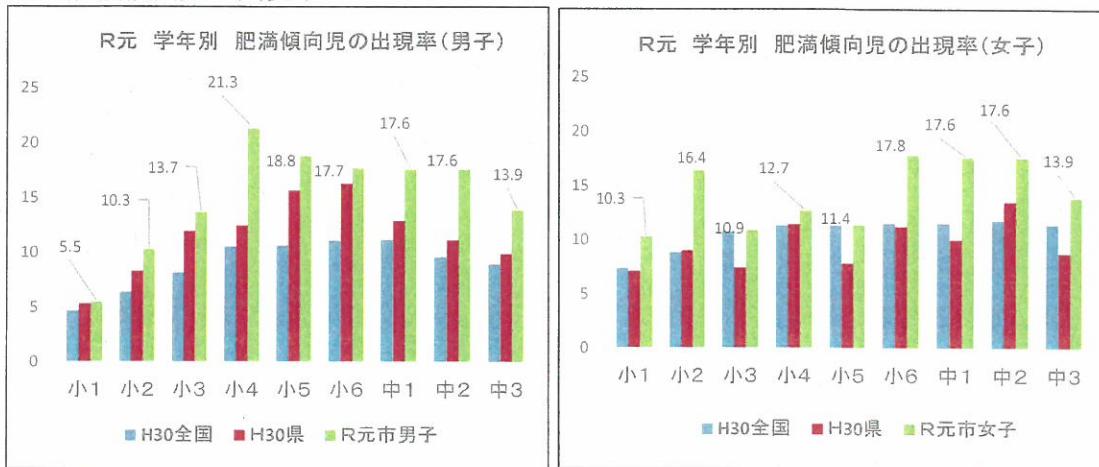
- 小学校陸上競技大会への参加に向けて、各校とも個人に目標をもたせたり、計画的に練習に取り組ませたりするなど、体力向上の機会として大会を活用することができた。
- 陸上大会では、多くの児童が自己記録を更新し、自分の設定した目標を達成することができた。

【指標1-②(4)】健康教育の推進

1. 放射線教育の実施状況

| | 学校数 | 教科領域 | 内 容 等 |
|-----|-----|------------|---|
| 小学校 | 11 | 学級活動 理科 | 放射線って何だろう 放射線から身を守るために 環境創造センター見学(5年生) |
| 中学校 | 6 | 学級活動 理科 | 科学技術と人間、放射線と放射能、内部被曝と外部被曝、半減期と放射線量、食物と放射線、放射線の人体への影響、除染、放射線と未来等 |

2. 肥満傾向児の出現率



〈考察〉

- 各小中学校では、食育推進コーディネーターを中心に、毎日の給食指導を生かした食育や、養護教諭や給食センター栄養技師による「食に関する指導」などをとおして、「食べる力」「感謝の心」「郷土愛」を育成している。
- 市児童生徒の健康課題である「う歯罹患率」については、平成29年1月から、幼稚園と小学校において、令和元年度からは中学校においても、フッ化物洗口事業を開始した。また、歯科衛生士による歯科指導、家庭と連携したう歯治療の推進等により改善に努めている。もう一つの課題である「肥満傾向児出現率」については、全体的に県平均よりも高く、食育の面からも、望ましい食習慣、運動を含めた生活習慣の改善にアプローチすることが必要である。

3. 食育に関する栄養技師の授業支援状況

| 対象(校種) | 回数 |
|------------------|-----|
| ・市内幼稚園「食に関する指導」 | 1回 |
| ・市内小学校「食に関する指導」 | 72回 |
| ・市内中学校「食に関する指導」 | 12回 |
| ・個別指導・面談 | 25回 |
| ・保護者「食育講話・試食会説明」 | 5回 |

4. 薬物乱用防止教室及び思春期保健教室、歯科保健教室実施状況

| 各種教育 | 内容 | 実施校 |
|----------|---------|--------------|
| 薬物乱用防止教室 | ◇外部講師活用 | 小学校10校・中学校6校 |
| 思春期保健教室 | ◇外部講師活用 | 小学校11校・中学校6校 |
| 歯科保健教室 | ◇外部講師活用 | 小学校11校・中学校6校 |

参考：施策指標の達成状況

【指標 1-③（1）】特別支援教育の充実

1. 特別支援教育にかかる相談、訪問等による支援

（1）特別支援学校のセンター的機能の活用状況

切れ目のない支援体制整備事業の活用

| | 小学校 | 中学校 | 合計 |
|--------|-------|------|-------------|
| 「相談支援」 | 6校15件 | 1校1件 | 7校16件 |
| 「研修支援」 | 3校3件 | 1校1件 | 4件（市教委研修含む） |

（2）特別支援に関する研修会等の開催

- ・特別支援教育支援員研修会 2回（授業研究会含む）
- ・心の教室相談員研修会 3回
- ・田村市特別支援教育推進連絡協議会（サポネット田村）3回

〈考察〉

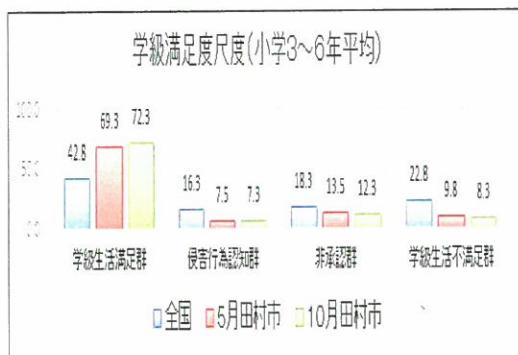
- 切れ目のない支援体制整備事業を活用し、「相談支援」に関しては、市内小学校6校15件、中学校2校2件、「研修支援」においては、4回の要請を行い、特別な支援を必要とする児童生徒への適切な支援について指導助言をいただいた。各校では助言いただいた内容を参考にし、児童生徒の実態に応じて継続した支援を行っている。
- たむら支援学校のセンター的機能により、専門的な知識や具体的な児童生徒への支援の方法の指導を受ける機会がより身近になった。たむら支援学校主催の研修会にも、特別支援学級担任等の多くが参加している。今後も「相談支援」「研修支援」をより積極的に活用していくよう周知をしていく。また、幼稚園・保育所等でも活用が可能であるとのことから、幼稚園・保育所へも活用を促していく。
- 就学指導については、保健課の乳幼児育成指導事業「すくすく教室」との連携により、早期からの就学に関する学習会を実施した。学校の協力を得て、希望者には特別支援学級の授業を参観する機会を設け、特別支援教育への理解を深めていただいた。関係機関と該当する保護者との顔つなぎを行うことができ、より相談しやすい体制づくりを行うことができた。このような取り組みから就学に対する保護者の意識が高まってきており、保護者との就学相談や学校見学などの機会については、今後も必要に応じて実施していく必要がある。
- 今後も、関係機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携するとともに、相談がより効果的になるように教員研修も充実させていく必要がある。
- 田村市特別支援教育推進連絡協議会（サポネット田村）では、後半の2回を事例研究に充て、小学校事例3件、保育所事例1件、計4件の事例について研究を深め、当該小学校、保育所の担当教員に助言を行った。本協議会は様々な関係機関から選ばれた委員で構成されているため、多様な視点から助言をいただける場である。今後も取り上げる事例を学校と相談しながら決定し、より一層の特別支援教育の推進を図っていく。

【指標1-③(2)】学校への適応指導の充実

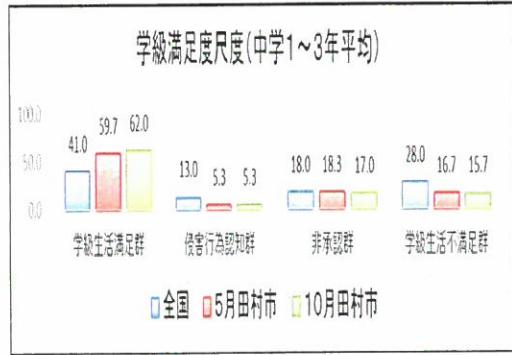
1. Q-U検査による学級満足度尺度及び学校生活意欲プロフィール

(1) 学級満足度尺度 (5月→10月の変容)

①小学校 調査結果

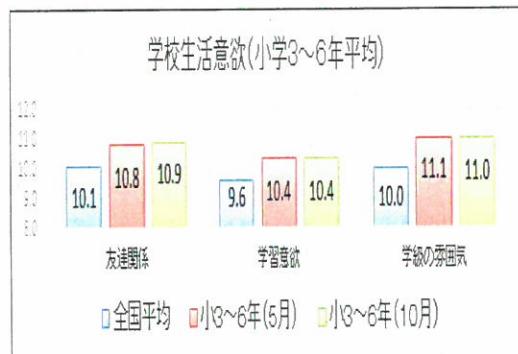


②中学校 調査結果

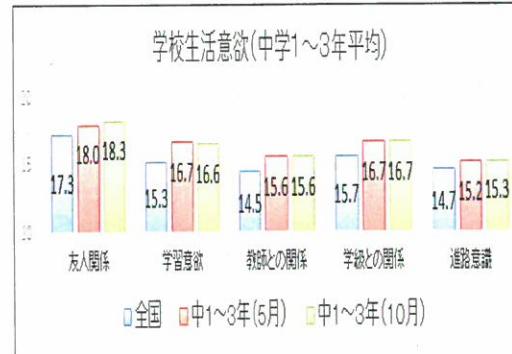


(2) 学校生活意欲 (5月→10月の変容)

①小学校 調査結果



②中学校 調査結果



〈考察〉

- 市内小・中学校の学級生活への満足度は、小学校3年生から中学校3年生までの平均で、5月は64.5%であったものが、10月は67.2%であり2.7ポイント上がっている。全国平均と比較して25ポイント以上高い。
- 「学校生活意欲」についても、市内の小・中学校は全ての項目で全国平均を上回っている。生徒にとって、より「わかる・できる」授業、「学びを実感できる」授業の実践に努めていく必要がある。授業の改善を不登校の防止へつなげていきたい。
- 児童生徒の学校生活が充実できるよう、Q-U検査を活用したP D C Aサイクルを機能させるとともに、心に寄り添った対応により、一人一人が意欲的に互いに協力し合える集団づくりに努めていくことが必要である。
※ P D C Aサイクル（P：学級集団の分析、支援計画の作成→D：支援策の実施、授業改善→C：学級集団の分析、支援策の効果検証→A：再支援策の実施）

2. 教育相談体制におけるSC, 心の教室相談員等の派遣実績

(1) 緊急スクールカウンセラー派遣実績

| 派遣小中学校 | 派遣日数 | 派遣時間 | 相談件数 |
|--------|------|------|------|
| 滝根小学校 | 30 | 180 | 154 |
| 大越小学校 | 30 | 180 | 115 |
| 都路小学校 | 30 | 180 | 86 |
| 常葉小学校 | 30 | 180 | 117 |
| 船引小学校 | 30 | 180 | 96 |
| 滝根中学校 | 30 | 180 | 87 |
| 大越中学校 | 30 | 180 | 146 |
| 都路中学校 | 30 | 180 | 97 |
| 常葉中学校 | 30 | 180 | 90 |
| 船引南中学校 | 30 | 180 | 200 |
| 船引中学校 | 30 | 180 | 360 |

※相談件数は2月末現在

(2) 心の教室相談員派遣実績

| 中学校 | 派遣日数 | 派遣時間 | 小学校 | 派遣日数 | 派遣時間 |
|--------|------|------|--------------|------|------|
| 滝根中学校 | 25 | 100 | 滝根小 | 3 | 12 |
| 大越中学校 | 76 | 300 | 大越小 | 3 | 12 |
| 都路中学校 | 76 | 300 | 都路小 | 3 | 12 |
| 常葉中学校 | 89 | 350 | 常葉小 | 3 | 12 |
| 船引南中学校 | 61 | 300 | 芦沢小、船引南小、要田小 | 9 | 36 |
| 船引中学校 | 140 | 1100 | 美山小、緑小、瀬川小 | 9 | 36 |
| 船引小学校 | 30 | 200 | | | |

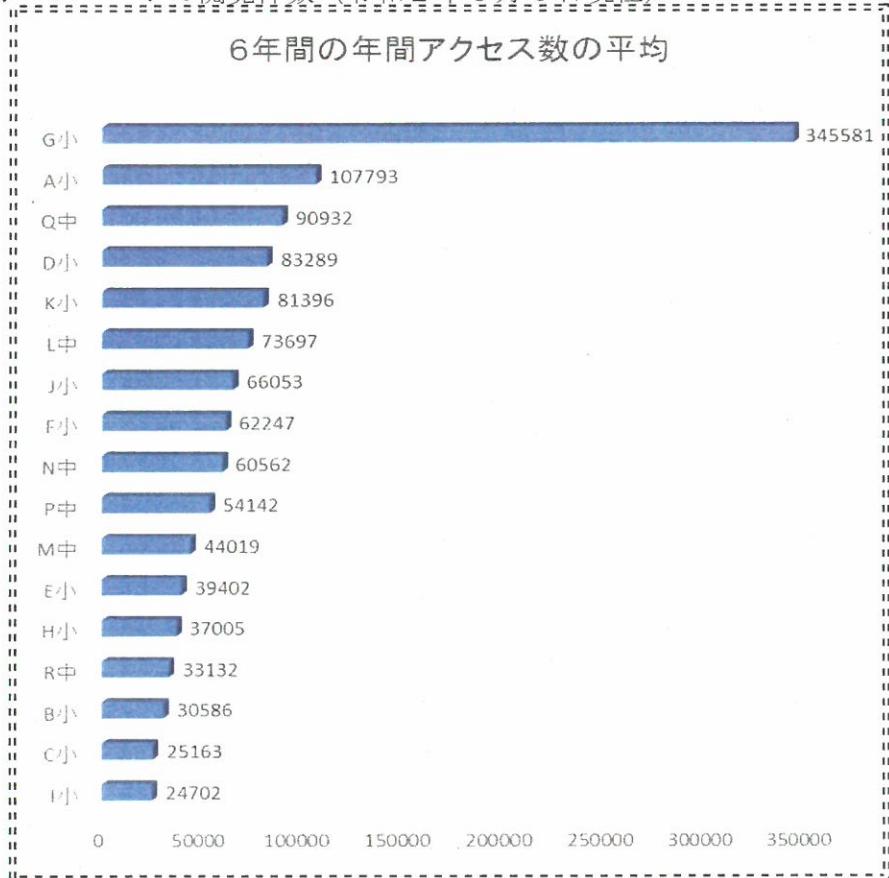
〈考察〉

- スクールカウンセラーが配置されている小・中学校では、不安や悩みを抱える児童生徒に対し、一人ひとりに寄り添って相談を実施している。担任や養護教諭等と連携し不登校の予防や学校不適応の解消に貢献した。また、校内の生徒指導委員会に加わり、専門的な立場から、児童生徒理解や適切な支援の仕方について助言をいただいている。また、不安を抱える保護者についても教育相談等を行っている。実態に応じて丁寧に対応していただき、学校との信頼関係を深めることができている。
- 心の教室相談員は、主に中学校において、学校生活や友人関係に不安を抱える生徒、相談室登校の生徒等に対し対応している。信頼関係を築きながら適切に関わり、不安や悩みの解消に努めている。また、不登校傾向の生徒に対しては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を図りながら、担任を支えてチーム支援に努めている。小学校においては、中学進学への不安や悩み等の相談や、小学校教員との情報交換を通して、事前に支援の必要な児童を把握して、中1ギャップの解消を図っている。
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心の教室相談員の役割を学校全体で共通理解し、それぞれの立場でどのような支援を行っていくことが適切かをケース毎に明らかにし、チームとして取り組んでいくことが重要である。

【指標1-④（1）】開かれた学校づくり

1 教育活動の積極的な公開

- 学校ホームページの閲覧件数（令和2年3月6日現在）



※ ポータルサイト開設が平成26年度であり、これまで6年間の運用により、各学校のアクセスカウンターをもとに平均化した数値

【指標1-④（2）】コミュニティ・スクール制度の導入

（1）常葉小中学校運営協議会推進委員会の設置と活動

- ① 会議回数 5回
- ② 推進メンバー 有識者 2名（大学准教授、元小学校長）
地域代表 2名（学校評議員）PTA会長 2名
校長、教頭、地域連携担当教職員
- ③ 先進地視察 3地域 東京都三鷹市 杉並区立天沼小 大玉村教育委員会

（2）コミュニティ・スクール制度の開始

令和2年4月1日田村市小中学校運営協議会規則施行（制度の開始）

【指標1-④（3）】特色ある教育による学校の魅力向上

（1）特別非常勤講師（地域素材）の活用実績

- 小学校 10校 79時間 7名の人材活用
 - ・ 内容は、ダンス 箏 書道 伝承太鼓、稻作、茶道、歌唱指導
- 中学校 1校 3時間 1名の講師
 - ・ 内容は、箏

【指標1－④（4）】地域や保護者との連携や協力

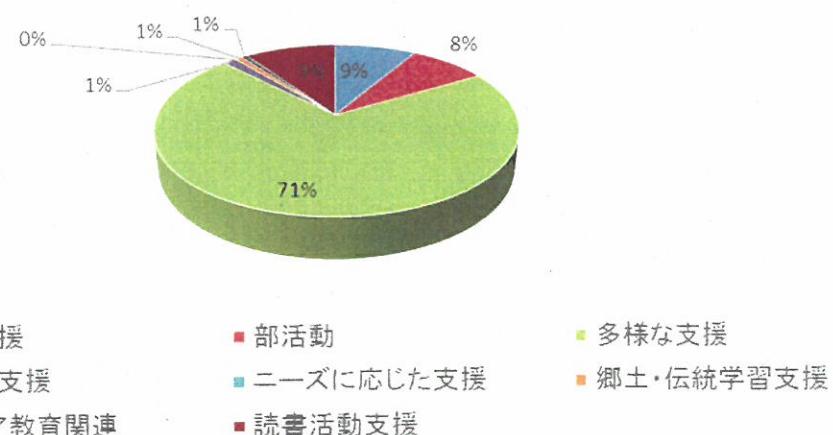
（1）地域ボランティアの積極的活用（令和元年9月の中間報告より）

田村市立幼稚園、小学校、中学校への地域本部事業の内容

① 総活用回数 1454回

② 活用のべ人数 1939人

上期における活用延べ人数の内訳



【指標1－④（5）】F2サミットの参加者

（1）参加中学校及び生徒数、引率者、その他

中学校 13校 市外 7校、市内 6校

生徒数 23名 市外 14名 (2年12名、1年2名) 市内 9名 (2年9名)

引率者 23名 市外 14名 市内 9名

コーディネーター 1名 (田村市出身者・東京都内の商社勤務25歳)

アシスタント 1名 (大学生ボランティア)

（2）サミットの主な活動内容

1日目 午前：オリエンテーション

午後：熟議1 (自分を語る・自分発見)

夜：灯篭流し・夏祭り見学

2日目 午前：熟議2 (ふるさとを語る・ふくしまを語る)

午後：F2サミット宣言作成・あぶくま洞見学

（3）参加生徒の声

市外生徒：将来史を書いて自分の目標がより具体的になったことによって、今の自分に何ができるかなどがわかつてよかったです。サミット宣言づくりでは、福島県の知らなかつた現状を知ることによって、今自分がやるべきことが明確になりました。私にとって、この2日間は忘れられない思い出となりました。

市内生徒：私はこの二日間で、自分のことや、福島県や田村市のことについて以前より深く知ることができました。他校の生徒さんのアイデアや言葉を聞くことでよい刺激をもらうことができました。私には、「様々な視点でのごとを見る」という目標があり、サミットを通して8割ほど達成す

ることができ、自信もつきました。サミット内で学んだこと、体験したこと忘れることなく、今後の学校生活を送っていきたいです。



〈考察〉

各学校とも、地域ボランティアの活用を図り、教育活動を保護者や地域にホームページを含め、積極的に公開することを通して、地域との連携・協力体制の強化を図りながら、教育活動の充実に努めている。特に令和2年4月1日より、田村市における学校運営協議会制度の施行に伴い、そのモデルケースとして常葉小学校運営協議会が立ち上がり、活動を開始することとなった。

学校を支える地域の仕組みを最大限に発揮できるよう、実践を通じた制度を整えていく必要がある。

F2サミットでは、避難12町村から田村市を除いた7校14名、田村市内からは6校9名、計23名の生徒が集い、2日間行動を共にした。田村市出身の若いコーディネーターのリードにより、参加した生徒たちは互いを認め合い、親和的な雰囲気の中で自分自身を振り返ったり、福島県の現状や将来について語り合ったりすることができた。特に、普段会うことがない他校の生徒と語り合うことができたことは、参加者にとって貴重な経験となったようである。

【指標1－⑤（1）】教職員の指導力の向上

1. 計画訪問等の実施状況

| | 計画訪問 | | | | 要請訪問 | | | | 個別支援訪問 | | | | 合 計 |
|-----|-------------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|-------------|--------|--------|
| | 幼 稚 園 | 小 学 校 | 中 学 校 | 小 計 | 幼 稚 園 | 小 学 校 | 中 学 校 | 小 計 | 幼 稚 園 | 小 学 校 | 中 学 校 | 小 計 | |
| 4月 | | | | 0 | | | | 0 | | 2 | 1 | 3 | 3 |
| 5月 | | | | 0 | | 1 | | 1 | | 4 | 3 | 7 | 8 |
| 6月 | | 8 | | 8 | | 4 | | 4 | | 17 | 9 | 26 | 38 |
| 7月 | | 33 | 10 | 43 | 2 | 3 | | 5 | | 26 | 7 | 33 | 81 |
| 8月 | | 8 | | 8 | | 1 | | 1 | | 2 | 1 | 3 | 12 |
| 9月 | 4 | | | 4 | | 4 | | 4 | | 31 | 5 | 36 | 44 |
| 10月 | 4 | 6 | 9 | 19 | 2 | 3 | 2 | 7 | | 18 | 5 | 23 | 49 |
| 11月 | | 7 | | 7 | | 3 | | 3 | | 13 | 8 | 21 | 31 |
| 12月 | | | | 0 | | 1 | 1 | 2 | | 2 | 3 | 5 | 7 |
| 1月 | | | | 0 | | 2 | | 2 | | 1 | 3 | 4 | 6 |
| 2月 | | | | 0 | | 6 | | 6 | | | 3 | 3 | 9 |
| 3月 | | | | 0 | | | | 0 | | | | 0 | 0 |
| 合計 | 8 | 62 | 19 | 89 | 4 | 28 | 3 | 35 | 0 | 116 | 48 | 164 | 288 |

(訪問者延べ人数)

- ※1 「計画訪問」は、管理運営に関する訪問または教育指導に関する訪問で、市教委が計画し、県中教育事務所に管理主事・指導主事等の派遣要請等を行って実施しているものである。
- ※2 「要請訪問」は、校内授業研究会、小・中連携授業研究会、小教研、中教研等の要請によるものである。
- ※3 「個別支援訪問」は、教育長訪問や人事評価制度に基づく訪問、または各学校の学力向上や生徒指導、障がいを持つ児童生徒のニーズに応じた指導方法、教育相談などについて該当校と改善に向けた協議等を行うものである。

〈考察〉

- 計画訪問では、市教育大綱（振興推進プログラム）の進捗状況を把握するとともに、各学校の教育活動及び施設設備等の管理全般にわたって改善・努力を要する事項等について協議及び助言・指導を行った。計画訪問を実施することで全職員により教育活動を全般にわたって見直す機会になるなど適切な学校運営を支援することができた。
- 要請訪問では、校内授業研究会や小・中連携授業研究会を中心に授業改善・学力向上へつながる積極的な支援ができた。
- 個別支援訪問では、学校がかかえている課題等の話し合いの中で、実際に応じた具体的な対応等について助言してきた。また、学力向上に関しては、学校支援指導主事の派遣により、算数・数学、外国語活動・英語の授業改善に向けて、教員個々の指導法のあり方について、複数回にわたり継続的に指導を行うことができた。

【指標1－⑤（2）】服務倫理の確立と働き方改革

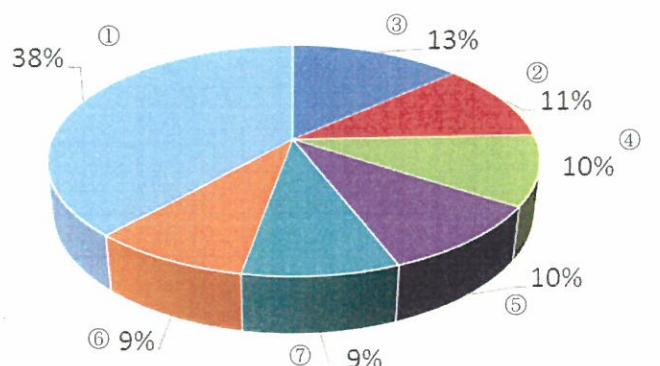
1 田村市立小・中学校の服務倫理委員会の開催状況及び内容

（1）校内服務倫理委員会開催状況

| 年間開催回数 | 10回 | 11回 | 12回 | 13回 | 市内のべ回数 |
|--------|-----|-----|-----|-----|--------|
| 学校数 | 6校 | 2校 | 6校 | 3校 | 193回 |

（2）議題及び内容

校内服務倫理委員会における協議題等



- ② ■ 交通事故・速度超過防止 ① ■ わいせつ・セクハラ防止
④ ■ 体罰 ③ ■ 飲酒運転防止
⑥ ■ 情報漏えい ⑤ ■ 公金取り扱い
⑦ ■ その他

その他は、福島県教育委員会「信頼される学校づくりを職場の力で」の確認や「チェックシート」による自己評価、パワハラ・人権・公務員職務そのものに関する研修等が含まれる。

2 勤務の適正化

（1）令和元年4月から令和2年1月までと平成30年4月から平成31年1月ま

での11カ月間の正規の勤務時間以外の在校時間の月平均の比較

| | 小学校 | 中学校 |
|-------|------|------|
| 教頭 | -7時間 | -3時間 |
| 教諭 | -4時間 | -5時間 |
| 講師 | +3時間 | -4時間 |
| 養護教諭 | -2時間 | -1時間 |
| 事務職員等 | -2時間 | +4時間 |

(2) 各学校における勤務適正化への主な取り組み事案

① 会議等の在り方改善、時間の短縮、内容の精選

- ・会議を原則月1回とする。
- ・会議の回数を減らすため、複数の会議を同日開催。
- ・連絡事項は回覧や掲示板を利用。
- ・資料の事前配付による説明時間の短縮。
- ・内容の重点化(説明の必要な案件と読んでわかる案件の区別)

② 文書事務等の簡素化

- ・文書データの共有
- ・学校行事実施案等のペーパレス化実施または検討
- ・手書き文書の削減

※ パソコンによる成績処理や通知表作成、指導要録への記入

〈考察〉

- 各学校において、服務倫理委員会が計画的に開催されており、各学校の教職員の実態や他地区で起こった事案をもとに、確実に実施されているものと考える。
- 本市においては、特に遠距離通勤者が多いため、交通事故防止に関することは全体協議題の13%となっている。
- 令和元年度は本県教職員の逮捕事案を含めた不祥事が多発したことから、セクハラ・わいせつに関すること、公務員倫理そのものについて研修の場を設けている学校も見られた。
- 教職員の働き方改革については、文部科学省のガイドラインである月45時間以下、年間360時間以下の正規の勤務時間以外の在校時間とすることまでは至っていないものの、昨年度と比較して減少はしている。

今後も、教職員一人一人のタイムマネジメント力(時間の使い方の改善によって、仕事の効率化を図る力)を向上させるとともに、会議のペーパレス化、校務支援システムの導入検討、地域人材の活用等を進め、業務の適正化をより一層進めていく必要がある。

田村市の将来像『あぶくまの人・郷・夢を育むまち～はつらつ高原都市 田村市～』

田村市の教育基本方針「未来を担うひとづくり」

2 生涯学習の充実

① 公民館の活性化を図ります

(1) 学級講座の充実

- 市民のニーズを捉えた学級講座の企画
 - 学級講座の評価と再検討
 - 学習ニーズアンケート調査の実施と結果の共有
 - 共同開催する学級講座の企画
- 市民に愛される公民館づくり
 - 管理運営体制の検証
 - 市民に愛される公民館の管理運営の検討
- 市民の文化・学習活動や交流施設の整備
 - 市民の文化・学習活動や交流施設の整備

② 放課後子ども教室事業を推進します

(1) 放課後子ども教室（めだかの学校）

- 放課後子ども教室の円滑な運営
- 反省を生かした実施校の継続
- コーディネーター及び指導員の育成と確保
- コーディネーターの育成
- 指導員の育成 ○ 指導員の確保
- 放課後子ども教室の周知及び広報
- 「教室だより」や「めだかの学校通信」の発行

③ 学校支援活動事業の推進を図ります

(1) 学校支援活動事業の円滑な実施

- 学校支援活動事業の推進
- 学校支援地域本部会議及び地域教育協議会の開催
- 地域の人材活用体制の整備
- コーディネーターの育成
- ボランティアの有効活用
- ボランティアの確保と資質向上
- 学校支援活動事業の周知
- 学校支援地或本部だよりの発行

④ 図書館の機能を充実します

(1) 図書館の機能充実

- 利用促進に向けた図書館資料及び機能の充実
- ニーズに合わせた蔵書の確保
- 貸出予約の利便化 ○ 年代別図書コーナーの設置
- 自主事業の充実 ○ 図書ボランティアの育成
- 子どもの強く生きぬく力を育むための読書活動
- 田村市子ども読書活動推進計画の実践と第三次計画の策定
- 子どもが利用しやすい館内環境の整備
- 学習支援機能の充実
- 子どもの読書活動にかかわる関係者の資質向上
- 図書館事業の周知
- 市民等への広報

3 芸術文化活動の推進

① 多様な芸術文化活動を支援します

(1) 芸術文化活動への支援

- 芸術文化活動への支援
 - 芸術文化団体への支援
 - 各地区文化祭や芸能祭への支援
- 文化センターを活用した芸術文化の提供
 - 質の高い自主文化事業等の実施
 - 文化センター運営委員会の開催
 - 小中学校芸術鑑賞教室の開催
 - 市民による身近な芸術文化の提供 ● 市民等への広報

4 文化財の保存と継承

① 地域に遺された文化財の保存と継承を推進します

(1) 文化財の保存と継承

- 文化財の保存と継承
- 文化財保護審議会の開催と県文化財保護指導者研修会への参加 ● 指定文化財の防災訓練と防火査察の実施
- 指定文化財の周知 ● 田村市史シリーズの継続発行
- 民俗文化の保存と伝統芸能の継承

(2) 地域の歴史を学び親しめる施設の整備

- 歴史民俗資料館の活用と文化財保存施設の整備
- 歴史民俗資料館の活用促進 ○ 文化財保存施設の整備

5 スポーツ・レクリエーション活動の推進

① 幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進します

(1) スポーツ・レクレーション大会の推進

- 運動公園内施設によるスポーツ交流人口の拡大
- 国内外からの高校、大学の合宿誘致
- 県レベル各種大会の誘致 ○ 施設のPR
- クロスカントリーコースの利活用
- 田村富士ロードレース大会の推進と参加者拡大
- 学校やスポーツ団体との連携による参加者の拡大
- ふくしま駅伝への参加と記録への挑戦
- 質の高い練習とスタッフの確保

(2) スポーツ・レクリエーションを通した交流の推進

- 小中学生対象のスポーツ大会や講習会等の開催
- ソフトボール大会や駅伝大会等の開催
- スポーツ教室の開催

(3) 活動を支える充実した指導体制の確立

- 指導者対象の研修会や講習会の開催
- スポーツ推進委員研修会 ○ 講習会
- スポーツ講演会の開催

(4) ネパールとの交流事業の推進

- ネパールとの交流事業の実施
- 事前合宿の実施 ○ スポーツ交流や文化交流の開催

2 教育振興推進プログラムダイジェストⅡ（生涯学習課所管事業）

2 生涯学習の充実

施策目標2-①「公民館の活性化を図ります。」

生涯学習に対する市民の意欲向上を図るため、それぞれの地域における多様なニーズを捉えた特色のある学級講座を企画するとともに、市民同士の交流機会を拡充するため、各公民館共同での学級講座開催や地域外市民の参加も検討するなどして、公民館の活性化を図ります。

また、誰もが気軽に訪れることができ、身近に利用しやすい市民に愛される公民館づくりを推進します。

指標2-①(1)-1：市民のニーズを捉えた学級講座の企画

- ・学級講座の評価と再検討
- ・学習ニーズアンケート調査の実施と結果の共有
- ・共同開催する学級講座の企画

指標2-①(2)-1：市民に愛される公民館づくり

- ・管理運営体制の検証
- ・市民に愛される公民館の管理運営方法の検討

施策目標2-②「放課後子ども教室事業を推進します」

子どもたちが学年の垣根をこえて、共に遊び・学びあうことにより、心豊かで健やかに育まれる環境を提供するために、地域の方々の協力を得て見守りを行うとともに、安全・安心な居場所を設置し、健全な児童の育成を行います。

指標2-②(1)-1：放課後子ども教室の円滑な運営

- ・反省を生かした実施校の継続

指標2-②(1)-2：コーディネーター及び指導員の育成と確保

- ・コーディネーター育成
- ・指導員の育成
- ・指導員の確保

指標2-②(1)-3：放課後子ども教室の周知及び広報

- ・教室だより、めだかの学校通信の発行

【参考資料】

令和元年度田村市放課後子どもプラン事業報告について

①放課後子どもプラン運営委員会事業報告

| 開催期日 | 開催場所 | 事業名 | 内容 | 備考 |
|-----------|--------|---------------------------|---------------------|-----------------------|
| 5月29日(水) | 田村市役所 | 第1回運営委員会 | 委員委嘱、令和元年度事業計画など | 委員5名出席 |
| 7月30日(火) | 古道体育館 | 第14回 田村市放課後児童クラブ交流会 | 市内児童クラブ交流事業（ミニ運動会等） | 事務局対応 |
| 8月18日(日) | 田村市内 | 灯籠流し大会 | 灯籠作成、灯籠流し実施 | 事務局対応 |
| 10月2日(水) | 芦沢小学校 | 県中教育事務所放課後子ども教室訪問 | 芦沢めだかの学校活動状況視察の対応 | 事務局対応 |
| 10月16日(水) | 船引南小学校 | 県中教育事務所放課後子ども教室訪問 | 船引南めだかの学校活動状況視察の対応 | 事務局対応 |
| 10月16日(水) | 田村市役所 | 第2回運営委員会 | 令和元年度事業進捗状況報告など | 台風19号の影響により中止 |
| 10月16日(水) | 田村市役所 | 田村市社会教育関係者合同研修会 | 県中教育事務所・滝根氏による講話 | 台風19号の影響により中止 |
| 2月21日(金) | 田村市役所 | 放課後子ども教室コーディネーター指導員等情報交換会 | 講演、情報交換 | 安全管理員等27名出席 |
| 3月10日(火) | 田村市役所 | 第3回運営委員会 | 令和元年度事業報告など | コロナウイルス感染症拡大防止のため書面決議 |
| 3月中旬 | | 広報紙「めだかの学校通信」Vol.22発行 | 広報紙の発行 | |

②放課後子ども教室推進事業（めだかの学校）実施報告

○めだかの学校実施状況について

| | 名 称 | 開催期間 | 開催日数 | 全児童数 | 登録児童数 (2月末現在) | 参加率 | 延参加児童数 (2月末現在) |
|---|-------------------------|------------------|--------|------|------------------|------|-------------------|
| 1 | 滝根めだかの学校 | H31.4.10～R2.3.2 | 140日 | 172名 | 148名 | 86% | 12,155名 |
| 3 | 常葉めだかの学校 | H31.4.15～R2.3.2 | 117日 | 227名 | 61名 | 27% | 6,977名 |
| 4 | 芦沢めだかの学校 (芦沢幼稚園含む) | H31.4.11～R2.2.27 | 156日 | 47名 | 47名 | 100% | 4,498名 |
| 5 | 船引南めだかの学校 (船引南幼稚園含む) | H31.4.11～R2.3.2 | 120日 | 109名 | 72名 | 66% | 5,279名 |
| 6 | 美山めだかの学校 | H31.4.18～R2.3.2 | 146日 | 49名 | 49名 | 100% | 4,186名 |
| 7 | 緑めだかの学校 (緑幼稚園含む) | H31.4.9～R2.3.2 | 176日 | 44名 | 44名 | 100% | 6,846名 |
| 8 | 瀬川めだかの学校 | H31.4.10～R2.3.2 | 168日 | 38名 | 38名 | 100% | 5,128名 |
| 9 | 要田めだかの学校 | H31.4.15～R2.3.2 | 157日 | 48名 | 48名 | 100% | 4,547名 |
| | | 計 | 1,180日 | 734名 | 507名 | 69% | 49,616名 |

施策目標 2-③ 「学校支援活動事業の推進を図ります」

子どもたちの健全育成を図るため、地域全体で学校を支えることができるよう、学校と地域との連携体制を構築し、学習支援活動や登下校の安全確保のための活動等、地域住民による積極的な学校支援の取り組みを促進し、教員の子どもと向き合う時間の増加や住民等の学習効果の活用機会の拡充及び地域教育力の活性化を図ります。

指標 2-③(1)-1：学校支援活動事業の推進

- ・学校支援地域本部会議及び地域教育協議会の開催

指標 2-③(1)-2：地域の人材活用体制の整備

- ・コーディネーターの育成
- ・ボランティアの確保と有効活用、資質向上

指標 2-③(1)-3：学校支援活動事業の周知及び広報

- ・学校支援地域本部だよりの発行

【参考資料】

学校支援地域本部会議 事業実績

| 事業名 | 実施日 | 場所 | 内容等 |
|------------------------------------|-----------|---------------|-------------------------|
| 第1回各地域教育協議会 | 4月～5月 | 各公民館等 | 委嘱状交付 |
| 第1回田村市学校支援地域本部会議 | 5月29日(水) | 田村市役所 | R1事業計画、評価等に係る協議等(22名出席) |
| 第1回田村市コーディネーター・担当者情報交換会 | 5月29日(水) | 田村市役所 | 関係者による情報交換 |
| 「学校・家庭・地域連携サポート事業」地域学校協働研修会(県主催事業) | 6月3日(月) | 郡山市労働福祉会館 | 講演、事例発表等(10名出席) |
| 「学校・家庭・地域連携サポート事業」地域学校協働研修会(県主催事業) | 7月30日(火) | たまかわ文化会館 | 講演、事例発表等(3名出席) |
| 第2回田村市学校支援地域本部会議 | 11月27日(水) | 田村市役所 | R1事業進捗状況等(19名出席) |
| 第2回田村市コーディネーター・担当者情報交換会 | 11月27日(水) | 田村市役所 | 関係者による情報交換 |
| 地域学校協働活動事業推進フォーラム(県主催事業) | 1月28日(火) | 郡山市ピックアップふくしま | 実践発表、シンポジウム等(8名出席) |
| 第3回田村市学校支援地域本部会議 | 3月25日(水) | 田村市役所 | コロナウイルス感染症拡大防止のため書面決議 |
| 第3回田村市コーディネーター・担当者情報交換会 | 3月25日(水) | 田村市役所 | コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 |

ボランティア支援実績 (滝根・大越・都路・常葉・船引・移・船引南地域合計 ※R1.9月末)

| 種別 | 内容 | 延べ実施回数 | ボランティア延べ人数 |
|-----------------------------|---|--------|------------|
| 学習支援ボランティア | 学校の教育活動における各教科の学習支援 | 60回 | 169名 |
| 部活動支援ボランティア | 部活動支援(野球・卓球・ソフトボール・剣道・ソフトテニス) | 156回 | 157名 |
| 学校に対する多様な支援ボランティア | 登下校の見守り、環境整備、遠足などの引率等 | 1,089回 | 1,375名 |
| 放課後等における学習・体験活動ボランティア | 放課後や土曜日、長期休業中の学習支援、放課後子ども教室や児童クラブにおける体験活動支援等 | 8回 | 27名 |
| 多様な教育的ニーズのある子どもたちへの支援ボランティア | 外国出身者支援、特別な支援が必要とする児童生徒への支援、ノートテイク支援、病院訪問学習支援 | 0回 | 0名 |
| 郷土学習・伝統文化芸能支援ボランティア | 地域に伝わる踊り、祭り、楽器支援等 | 5回 | 14名 |
| キャリア教育・職場体験支援ボランティア | 職場体験等 | 0回 | 0名 |
| 読書活動支援 | 読み聞かせやブックトーク等子どもの読書活動支援 | 133回 | 187名 |
| その他ボランティア | その他の支援 | 3回 | 10名 |
| | 合計 | 1,454回 | 1,939名 |

施策目標2－④ 「図書館の機能を充実します」

幼児から高齢者、障害を持つ方にも対応した利用しやすい身近な図書館を目指し、ニーズに対応した蔵書の充実をはじめ、市内外図書館とのネットワーク化、大学図書館などとの相互協力、ユニバーサルデザイン化を進めます。

図書館機能を最大限に活用するため、県内外の事例を参考にしながら、学校図書館への支援や親子で交流する場の創出、ホームページからの貸出予約など効率的な運営管理に取り組みます。

指標2－④（1）－1：利用促進に向けた図書館の資料及び機能の充実

- ・ニーズに合わせた計画的な蔵書の確保
- ・貸出予約の利便化
- ・年代別図書コーナーの設置
- ・自主事業の充実
- ・図書ボランティアの育成

指標2－④（1）－2：子どもの強く生きぬく力を育むための読書活動

- ・田村市子ども読書活動推進計画の実践と第三次計画の策定
- ・子どもが利用しやすい館内環境の整備
- ・学習支援機能の充実
- ・子どもの読書活動にかかわる関係者の資質向上

指標2－④（1）－3：図書館事業の周知

- ・市民等への広報

【参考資料】

| 区分 | 事業名 | 対象 | 期日 | 場所 | 備考 ※実績は2月末現在 |
|-----------------|-----------------------------|-----------------------|----------------------------|-----------------------------|--|
| 田村市図書館本館 | 学習支援 | 市立小中学校 | 年間 | 全館 | 参考業務・所蔵調査、見学学習 見学 12回259名参加 体験 4回8名参加 |
| | ひだまりおはなし会 (定例おはなし会) | 0歳～2歳と保護者 | 毎月 第1・第3金曜 | 本館 | おはなし会どんぐりによる本の読み聞かせ、わらべうた、手遊び等 21回182名参加 |
| | おはなしの広場 (特別おはなし会) | 幼児・児童・保護者 | 年2回 (夏・冬) | 本館 | 工作等のお楽しみ会とおはなし会 夏 7月27日 36名参加 冬 12月21日 27名参加 |
| | 春の特別おはなし会 (こども読書週間事業) | 児童 | 年1回(4月) | 本館 | 絵本の読み聞かせ、朗説、素語りなど 4月27日 27名参加 |
| | 夏の怖いおはなし会 (特別おはなし会) | 児童 | 年1回(8月) | 本館 | 昔話や伝承の語り、絵本等の読み聞かせ 8月17日 26名参加 |
| | 大人のためのおはなし会 | 学生・一般 (15名～20名) | 年3回 | 本館 | 絵本の読み聞かせ、朗説、素語りなど 6月30日 10名参加 11月24日 2名参加 |
| | シニア向けおはなし会 | 一般 | 随時 | 本館 | 老人会や、社会福祉団体の依頼を受け、高齢者向けに読み聞かせや、民話語りを実施 |
| | 児童施設おはなし会 | 幼児・保護者 | 随時 | 船引保育所・子育て支援センター・私立こども園、保育園等 | おはなし会ボランティアによる読み聞かせ等 7回284名参加 |
| | 学校支援おはなし会 | 児童 | 随時 | 船引地区内小学校等 | おはなし会ボランティアによる読み聞かせ等 57回1232名参加 |
| | おはなし会ボランティアの育成（ボランティア連絡会開催） | ボランティア・一般 | 年1回 | 本館・市役所等 | おはなし会開催のための人材育成と確保（市内で活動する読み聞かせボランティア団体の意見交換や全体研修のための会議） 2月13日 24名参加 |
| 田村市図書館ブックスタート事業 | ブックスタート事業 | 乳児・保護者 | 4ヶ月・10か月 児健康診査 (月1回) | 船引保健センター | 子ども未来課、保健課と連携したブックスタートの推進及びフォーラムアップ 4ヶ月児 11回410名参加 10か月児 11回371名参加 |
| | 田村市図書館ブックスタートサポーター事業 | ブックスタートサポーター | 年1回 | 船引保健センター・本館 | 田村市図書館ブックスタートサポーターの運営と育成のための研修等の実施 |
| | めざせ！図書館員講座 | 市内小・中学生 (4名～10名以内) | 7月～11月 (全6回) 1講座2時間 | 本館 | 図書館の仕事を通して学校図書館や地域で利用の推進者となる人材を育成する 4回 (受講者4名) |
| | こども語り手養成講座 | 市内小・中学生 (4名～10名以内) | 6月～10月 (全4回) | 本館 | 地域に伝わる昔話を伝承する若い人材の育成 3回 (受講者5名) 発表会 10月26日 民話まつり 11月16日 |
| | 自主事業（講演会） (秋の読書週間事業) | 一般・ボランティア | 年1回 | 船引公民館ホール | 地域の読書活動を推進することを目的とした講演会等の実施 11月2日 55名参加 |
| 滝根分館 | 定例おはなし会 | 乳幼児・保護者 小学校低学年 | 年9回程度 | 滝根公民館 | 担当者及びボランティアによる読み聞かせ 9回45名参加 |
| | 特別おはなし会 | | 年2回 (夏・冬) | | 公民館と連携し、読み聞かせやクラフト工作などをを行う 12月15日 4名参加 |
| | 児童施設おはなし会 | | 年4回程度 | 滝根保育所 三世代交流館 | ボランティアによる読み聞かせ 8回220名参加 |
| | 学校支援おはなし会 | 幼児・児童 | 随時 | 滝根幼稚園・小学校等 | 33回948名参加 |
| 大越分館 | 定例おはなし会 | 乳幼児・保護者 小学生低学年 | 年7回程度 | 大越公民館 | ボランティアによる読み聞かせ 7回243名参加 |
| | 児童施設おはなし会 | 幼児 | 年10回程度 | 大越こども園保育部 | 10回234名参加 |
| | 学校支援おはなし会 | 幼児・児童 | 随時 | 大越こども園幼稚教育部・小学校等 | 8回251名参加 |
| 都路分館 | 特別おはなし会 | 幼児・児童・一般 | 年2回 (夏・冬) | 都路公民館 | 公民館と連携し、読み聞かせやクラフト工作などをを行う 12月24日 78名 |
| | 児童施設おはなし会 | 幼児 | 年10回程度 | 都路こども園保育部 | 担当者及びボランティアによる読み聞かせ 9回146名参加 |
| | | 児童 | 年10回程度 | 都路こども園児童館 | 9回259名参加 |
| | 学校支援おはなし会 | 幼児・児童 | 随時 | こども園幼稚教育部・小学校等 | ボランティアによる読み聞かせ 11回113名参加 |
| 常葉分館 | 定例おはなし会 | 乳幼児・保護者 | 毎月第3水曜 | 常葉公民館 | 担当者及びボランティアによる読み聞かせ 11回 4名参加 |
| | 児童施設おはなし会 | 幼児・児童 | 随時 | 常葉保育所 | ボランティアによる読み聞かせ 4回85名参加 |
| | 学校支援おはなし会 | 幼児・児童 | 随時 | 常葉幼稚園 小学校等 | 23回726名参加 |

3 芸術文化活動の推進

施策目標 3-① 「多様な芸術文化活動を支援します。」

質の高い芸術文化や伝統文化に日ごろから親しむことで、心豊かな人間性を育みます。また、市民が地域の芸術文化の担い手となり、地域文化の創造を通じて地域を活性化する活動を支援します。

指標 3-①(1) : 芸術文化活動への支援

- ・芸術文化団体への支援
- ・各地区文化祭・芸能祭への支援

指標 3-②(1) : 質の高い自主文化事業等の実施

- ・文化センター運営委員会の開催
- ・小中学校芸術鑑賞教室の開催
- ・市民による身近な芸術文化の提供
- ・市民等への広報

【参考資料】

小・中学生芸術鑑賞教室実績

| 事業名 | 実施月日 | 回数 | 対象学年 | 参加者数（引率者含む） |
|-----------------------|------|----|-------|-------------|
| 小学生芸術鑑賞教室 「和楽器鑑賞会」 | 6月6日 | 2 | 5・6年生 | 595人ほか一般52人 |
| 中学生芸術鑑賞教室 「演劇鑑賞会」 | 7月4日 | 1 | 2年生 | 366人ほか一般69人 |

次代を担う子どもの文化芸術体験事業実施校

| 事業名 | 学校名 | 実施月日 | 公演・体験内容 |
|-----------------------|-------|--------|-----------|
| 巡回公演事業 (4校応募で3校採択) | 都路小 | 7月18日 | 児童劇 |
| | 美山小 | 9月27日 | オーケストラ |
| | 滝根小 | 12月16日 | 演芸 |
| 派遣事業 (1校応募で1校採択) | 船引小4年 | 9月30日 | 舞踊 |
| | 船引小5年 | 10月3日 | ヒップホップダンス |
| | 船引小6年 | 10月10日 | |

文化センター自主文化事業実績

| 事業名 | 実施月日 | 回数 | 入場者数 |
|-----------------------------|-------|----|------|
| さかなクン～おさかなトークショー | 7月30日 | 1 | 458名 |
| 増田明美氏 講演会 | 2月13日 | 1 | 520名 |
| 杉山清貴&沢田知可子 アコースティックコンサート | 2月16日 | 1 | 728人 |

4 文化財の保護と継承

施策目標 4-① 「地域に遺された文化財の保存と継承を推進します。」

貴重な郷土の財産である文化財に対する市民の関心を高めながら、歴史資料の保存や発掘、無形民俗文化財を伝承する人材の育成などを推進します。

指標 4-①(1)：文化財の保存と継承

- ・文化財保護審議会の開催と県文化財保護指導者研修会への参加
- ・指定文化財の防災訓練と防火査察の実施
- ・指定文化財の周知
- ・田村市史シリーズの継続発行
- ・民俗文化の保存と伝統芸能の継承

指標 4-②(1)：歴史民俗資料館の活用と文化財保存施設の整備

- ・歴史民俗資料館の活用促進
- ・文化財保存施設の整備

5 スポーツレクリエーション活動の推進

施策目標 5-①「幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。」

市民の健康増進・体力向上のために、スポーツ活動の拠点となる運動公園内の施設を利用した室内外の競技スポーツ交流人口の拡大と「市民がスポーツをする」機会を増やし、スポーツの盛んな明るい地域社会づくりを図ります。

また、公式大会を誘致し、市民が身近で「スポーツを見る」楽しさに目覚め、「スポーツをする」契機に発展していくように推進を図ります。

指標 5-①(1)：運動公園内施設によるスポーツ交流人口の拡大

- ・国内外からの高校、大学の合宿誘致
- ・県レベル各種大会の誘致
- ・施設のPR
- ・クロスカントリーコースの利活用

指標 5-①(2)：田村富士ロードレース大会への推進と参加者拡大

- ・学校・スポーツ団体との連携による参加者の拡大

指標 5-①(3)：ふくしま駅伝への参加と記録への挑戦

- ・質の高い練習、スタッフの確保

指標 5-②(1)：小中学生対象のスポーツ大会や講習会等の開催

- ・ソフトボール大会、駅伝大会等の開催
- ・スポーツ教室の開催

指標 5-③(1)：指導者対象の研修会や講習会の開催

- ・スポーツ推進員研修会・講習会
- ・スポーツ講演会の開催

指標 5-④(1)：ネパールとの交流事業の実施

- ・事前合宿の実施
- ・スポーツ交流や文化交流の開催

【参考資料】

運動公園 合宿利用実績 (R 1)

| 施 設 | 団 体 |
|-------|-------------------------------|
| 総合体育館 | 東京都 明治学院東村山高校バドミントン部 (1回4日) |
| 総合体育館 | 東京都 明治学院東村山高校バスケットボール部 (1回4日) |

運動公園 県大会等利用実績 (R 1)

| 施 設 | 団 体 |
|---------|--------------------------------------|
| 総合体育館 | 繋 バレーボール大会 (1日) |
| | 第 57 回福島県障がい者総合体育大会 フライングディスク競技 (1日) |
| | 繋 第 7 回福島県選手権バレーボール大会 (1日) |
| | 福島県内中学生バレーボール交流イベント友情ネットプロジェクト (1日) |
| | 全日本シニアバトミントン大会 (2日) |
| | 近県選抜中学生ソフトテニスインドア大会 (2日) |
| | U 12・U 13 エンデバーバスケットボール交流大会 (1日) |
| | 第 29 回春の全国ドッジボール選手権大会福島県大会 (1日) |
| | 第 5 回ウインターカップ福島県障がい者フライング大会 (1日) |
| 陸上競技場 | 2 0 2 0 東京オリンピック選出育成事業 (21日) |
| | 第 57 回福島県障がい者総合体育大会フライングディスク競技 (1日) |
| | 第 29 回福島県リレーカーニバル (1日) |
| | 福島県障がい者フライング大会 (1日) |
| | 第 38 回田村富士ロードレース大会 (1日) |
| 多目的運動広場 | 第 5 回たむらクロスカントリー大会 (中止) |
| | 福島県中学生ソフトボール大会 (2日) |

クロスカントリーコース利用実績 (R 1)

| 施 設 | 団 体 |
|--------|--|
| 大会等 | 第 38 回田村富士ロードレース大会・ウォークの部 (1日) |
| | 第 5 回たむらクロスカントリー大会 (中止) |
| トレーニング | 船引中、三春中、大越中、ふくしま駅伝田村市チーム、田村市陸協、田村高校、小野高校、川内中、富田中、岩江中、船引南中、都路中、常葉中、滝根中、葛尾中、西田中、船引歩く友の会、尚志高校、日大工学部、ひらた清風中、帝京安積高校、安積高校、安積黎明高校 |

田村富士ロードレース大会申込者（地域別）

| 年度 | 市内 | 市外 | 県外 | 合計 | 完走者 |
|-----|-------|-----|-----|-------|-------|
| R 1 | 864 | 361 | 32 | 1,257 | 1,088 |
| H30 | 936 | 305 | 31 | 1,272 | 1,172 |
| H29 | 944 | 298 | 30 | 1,272 | 1,124 |
| H28 | 919 | 230 | 45 | 1,194 | 1,075 |
| H27 | 966 | 287 | 49 | 1,302 | 1,144 |
| H26 | 931 | 334 | 67 | 1,332 | 1,135 |
| H25 | 1,012 | 337 | 105 | 1,454 | 1,273 |

田村富士ロードレース大会申込者（部門別）

| 年度 | 小学生 | 中学生 | 高校 | 一般 | 親子 | ウォーク |
|-----|-----|-----|----|-----|-----|------|
| R 1 | 259 | 327 | 33 | 211 | 366 | 61 |
| H30 | 266 | 285 | 13 | 202 | 424 | 82 |
| H29 | 278 | 353 | 55 | 179 | 338 | 69 |
| H28 | 254 | 308 | 48 | 241 | 268 | 75 |
| H27 | 298 | 323 | 62 | 270 | 268 | 81 |
| H26 | 257 | 359 | 70 | 299 | 252 | 95 |
| H25 | 349 | 376 | 48 | 297 | 314 | 70 |

市町村対抗福島県縦断
駅伝競走大会成績

| 年度 | 記録 | 市の部 | 総合の部 |
|-----|----------------|-----|------|
| R 1 | 5 時間 22 分 41 秒 | 9 位 | 12 位 |
| H30 | 5 時間 17 分 46 秒 | 7 位 | 10 位 |
| H29 | 5 時間 13 分 15 秒 | 5 位 | 7 位 |
| H28 | 5 時間 11 分 48 秒 | 5 位 | 5 位 |
| H27 | 5 時間 13 分 07 秒 | 6 位 | 6 位 |
| H26 | 5 時間 11 分 38 秒 | 5 位 | 5 位 |
| H25 | 5 時間 13 分 51 秒 | 7 位 | 7 位 |

青少年スポーツ大会実績

| 大会名 | 参加チーム数 | 参加者数 |
|------------------------|--------|---------|
| あぶくま洞大多鬼丸旗争奪児童ソフトボール大会 | 64 チーム | 1,300 名 |
| 都路町グリーンパーク杯ソフトボール大会 | 24 チーム | 450 名 |
| 都路町グリーンパーク杯バーレーボール大会 | 24 チーム | 550 名 |
| ビートル駅伝大会 | 57 チーム | 550 名 |

講習会等実績（R 1）

| 講習会等名 | 会場 | 参加者数 |
|---------------------|-----------|-------|
| サッカー教室(小、スポ少) | 常葉体育館 | 39 名 |
| バスケットボール教室(小、スポ少・中) | 市総合体育館 | 103 名 |
| バスケットボール観戦(小・スポ少) | いわき市総合体育館 | 30 名 |
| ファイヤーボンズ学校訪問(小学校) | 市内小学校 | 45 名 |
| バーレーボール教室(中学生) | 郡山総合体育館 | 140 名 |
| バーレーボール観戦(中学生) | 郡山総合体育館 | 40 名 |
| 野球観戦(小、スポ少) | 市総合体育館 | 67 名 |
| キヤリアデザインセミナー(中学生) | 楽天生命パーク | 31 名 |

6 教育行政の円滑な推進と効率的運営



3 教育振興推進プログラムダイジェストⅢ（教育総務課所管事業）

6 教育行政の円滑な推進と効率的運営

施策目標 6－1：「教育委員会の活性化を図ります。」

指標 6－①(1)-1：教育委員会の透明性を高める取組

○所管事務調査、施設等の視察の実施

- ・滝根小学校に滝根幼稚園を併設するための現地視察を実施

○会議運営の工夫と公表

- ・会議資料の事前配布や会議における説明の効率化。会議内容をホームページで公表
- ・教育委員会開催は、定例会 12回、臨時会 2回、施設訪問 1回実施、市長との教育懇談会 2回。
- ・次年度事業等の勉強会
- ・委員会討議・課題テーマ一覧
 - ① 教育委員会の事務に関する点検評価
 - ② 常葉地区小中学校における 5－4 制による小中一貫校の実施に向けた取り組み
 - ③ 要保護及び準要保護児童生徒の認定
 - ④ 田村市中学生海外派遣研修事業
 - ⑤ 学校給食センターの運営方針と食育計画
 - ⑥ 全国学力・学習状況調査結果の公表
 - ⑦ 給食費及び奨学資金の未納者に対する対応
 - ⑧ めだかの学校の運営方法等
 - ⑨ 学校支援地域本部、各地域教育協議会の状況
 - ⑩ 今後の児童・生徒数の推計

教育委員会の所管事務の調査、施設や教育活動等の視察状況

| 月 日 | 事 業 名 | 場 所 |
|--------|----------------|-----------|
| 4月 8日 | 市立小・中学校入学式、始業式 | 各小・中学校 |
| 4月 9日 | 市立幼稚園・こども園入園式 | 各幼稚園・こども園 |
| 5月 8日 | 第1回田村市教育総合会議 | 田村市役所 |
| 5月 15日 | 中体連田村支部陸上競技大会 | 市陸上競技場 |
| 5月 17日 | 第1回外部評価委員会 | 田村市役所 |

| 月 日 | 事 業 名 | 場 所 |
|-------------|-----------------------------|-------------------|
| 5月 29日 | 中体連田村支部大会（～5月30日） | 市総合体育館ほか |
| 6月 17日 | 通園通学のあり方に関する検討委員会 | 田村市役所 |
| 6月 25日 | 市長との教育懇談会 | 田村市役所 |
| 7月 5日 | 市町村教育委員会連合会教育委員研修会 | 郡山市民文化センター |
| 7月 17日 | 通園通学のあり方に関する検討委員会 | 田村市役所 |
| 7月 19日 | 市町村教育委員会連絡協議会田村支会研修会 | 三春「まほら」 |
| 7月27日～7月28日 | 中学生夏季英語研修事業（サマーイングリッシュキャンプ） | スカイパレスときわ |
| 8月 4日 | 田村市少年の主張大会 | 市文化センター |
| 8月 18日～19日 | F 2 サミット | 田村市役所 |
| 8月 22日 | 通園通学のあり方に関する検討委員会 | 田村市役所 |
| 8月 27日 | 県市町村教育委員会連絡協議会教育委員研修会 | 福島テルサ |
| 8月 30日 | 田村支部中学校駅伝競走大会 | 市陸上競技場 |
| 9月 2日 | 県市町村教育委員会連絡協議会県中ブロック研修会 | 須賀川市民交流センター |
| 9月 19日 | 田村市小学校陸上競技大会 | 市陸上競技場 |
| 9月 24日 | 第1回教育委員会所管施設訪問 | 滝根小学校・船引小学校 |
| 9月 25日 | 中体連支部新人大会（～26日） | 市総合体育館ほか |
| 9月 30日 | 通園通学のあり方に関する検討委員会 | 田村市役所 |
| 9月30日～10月8日 | 中学生海外派遣研修事業 | 姉妹都市アメリカ・マンスフィールド |
| 10月 6日 | 国際交流運動会 | 市陸上競技場 |
| 10月 20日 | 第38回田村富士ロードレース大会 | 市陸上競技場 |
| 11月 3日 | 第43回田村市ビートル駅伝競走大会 | 常葉体育館 |
| 11月 17日 | 第31回福島県縦断駅伝競走大会 | 白河～福島 |
| 11月 19日 | 通園通学のあり方に関する検討委員会提言書提出 | 田村市役所 |
| 11月 19日 | 市長との懇談会 | 田村市役所 |
| 11月 20日 | 新任教育委員研修 | 福島県庁 |
| 1月 12日 | 令和2年田村市「成人式」 | 市文化センター |
| 1月 20日 | 教育委員会勉強会 | 田村市役所 |
| 3月 5日 | 常葉小中学校連絡通路完成式 | 常葉小中学校 |
| 3月 13日 | 田村市立中学校卒業式 | 各中学校 |
| 3月 13日 | 第2回外部評価委員会 | 田村市役所 |

| 月 日 | 事 業 名 | 場 所 |
|-------|-----------------|-----------|
| 3月18日 | 田村市立幼稚園・こども園卒園式 | 各幼稚園・こども園 |
| 3月23日 | 田村市立小学校卒業式 | 各小学校 |

指標6-① (2)-1：教育振興推進プログラムの自己評価

- 教育大綱ダイジェスト版の策定
- 課内での施策に対する自己評価の実施
- 外部評価委員会の前期・後期開催
- 外部評価委員会委員の評価、評価結果の議会報告、ホームページ掲載

施策目標6-2：「教育予算を効果的・効率的に執行します。」

指標6-②(1)-1：田村市財政計画をふまえた効率的な予算執行

- 教育大綱に基づく重点事業の設定
 - 予算編成ヒアリングの実施
- 次年度に向けた効果的な教育予算を要求

施策目標6-3：「人材育成を推進します。」

指標6-③(1)-1：奨学金制度の効果的な運営

- 奨学制度の周知は、田村市内の中学校や田村市の高校生が在籍する高校への制度案内依頼
- 広報紙、ホームページ掲載
本年度貸付者、5名 大学生
本年度貸与年額は 264万円
- 来年度給付者 大学1名 3月18日(水) 面接試験、作文試験を実施

指標6-③ (2)-1：海外留学支援制度の推進

- 海外留学支援制度は、猪狩俊郎人材育成基金による高校生の海外留学支援で、1年間のアメリカ留学に対する渡航費、学費、滞在費への助成であり、現在まで3名に支援した。
- 田村市の高校生が在籍する高校への周知依頼
- 中学生海外派遣研修参加者へのチラシ配布による周知
- 広報紙、ホームページへの掲載

施策目標 6－4：「教育環境の整備・充実を進めます。」

指標 6－④ (1)－1：教育活動の場にふさわしい環境の整備

- 各学校の経年劣化の状況を把握し、要望や現状を踏まえ計画的修繕の実施
- 施設のトイレ洋式化については、各学校の児童数や生徒数の推移等を勘案しながら洋式化を推進した。

指標 6－④ (2)－1：児童生徒の安全な学校生活のための環境整備

スクールバス試乗による安全確認の実施

- 防火管理体制の充実
- 通学路安全点検における危険個所の解消

指標 6－④ (3)－1：児童生徒の通学支援

- 遠距離通学児童生徒への通学支援として、補助金交付の継続
- 自転車通学への通学支援として、ヘルメット購入補助の継続

施策目標 6－5：「教育効果を高めるための学校規模の適正化を進めます。」

指標 6－⑤ (1)－1：学校規模の適正化推進

- 各地域の今後の児童生徒数の推計

児童数推計

| 区分 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 滝根小 | 166 | 162 | 159 | 150 | 141 | 145 | 138 |
| 大越小 | 171 | 172 | 168 | 165 | 146 | 141 | 124 |
| 都路小 | 46 | 44 | 47 | 41 | 38 | 31 | 33 |
| 関本小 | — | — | — | — | — | — | — |
| 常葉小 | 229 | 230 | 227 | 223 | 213 | 206 | 190 |
| 西向小 | — | — | — | — | — | — | — |
| 芦沢小 | 41 | 36 | 43 | 43 | 39 | 36 | 37 |
| 船引南 | 95 | 96 | 92 | 90 | 90 | 83 | 86 |
| 船引小 | 665 | 645 | 665 | 625 | 609 | 594 | 580 |
| 美山小 | 48 | 50 | 48 | 51 | 53 | 55 | 56 |
| 緑小 | 44 | 45 | 46 | 51 | 51 | 51 | 49 |
| 瀬川小 | 38 | 35 | 38 | 39 | 40 | 39 | 34 |
| 要田小 | 47 | 42 | 49 | 45 | 48 | 58 | 58 |
| 計 | 1,638 | 1,602 | 1,582 | 1,523 | 1,468 | 1,439 | 1,385 |

| 区分 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 滝根中 | 116 | 98 | 103 | 99 | 103 | 83 | 81 |
| 大越中 | 100 | 100 | 93 | 87 | 94 | 86 | 92 |
| 都路中 | 45 | 33 | 27 | 26 | 25 | 31 | 20 |
| 常葉中 | 131 | 124 | 128 | 120 | 123 | 120 | 119 |
| 船引南中 | 70 | 73 | 81 | 81 | 80 | 70 | 65 |
| 船引中 | 413 | 396 | 398 | 434 | 442 | 438 | 408 |
| 計 | 875 | 824 | 830 | 847 | 867 | 828 | 785 |

○田村市立小学校適正規模・適正配置検討委員会要綱の策定し、次年度から検討していく

III 外部評価委員より

令和元年度事業実施結果・評価

学校教育課

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

| 施 策 | | 内部評価 | 外部評価 |
|-----------|--|--|--|
| 1 学校教育の充実 | <p>1 確かな学力を育成します</p> <p>(1) 学力向上の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> □主体的、対話的で深い学びの実現 <ul style="list-style-type: none"> ○「授業スタンダード」の活用 ○「活用力育成シート」の活用 ○教員の授業改善促進 □学習習慣の確立 <ul style="list-style-type: none"> ○「田村っ子」家庭学習の手引の活用 ○「家庭学習スタンダード」等の活用 □連携型保幼・小・中一貫教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○幼小中連携ステップアップ事業 ○小中一貫カリキュラムの共有 ○はぐくみステップ・スタートカリキュラムの充実 □複式学級指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○複式学級指導支援員の配置 <p>(2) 英語が使える人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> □国際社会に対応した外国語教室 <ul style="list-style-type: none"> ○ALTによる外国語授業の充実 ○中学生夏季英語研修 ○中学生海外派遣研修事業 ○English School Bus事業(☆) (3) ICT 教室の充実 <ul style="list-style-type: none"> □プログラミング教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○プログラミングの思考の育成 □ICT教育環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の配置と活用(☆) | <p>○「授業スタンダード」に基づく授業づくりの継続して推奨してきたことにより、授業改善につながっている。</p> <p>○学校訪問および学校支援指導主事訪問における授業研究の機会を通して、教員一人一人の指導力向上に努めた。</p> <p>○自己マネジメント力向上を意識した教育活動を推奨することで、学習規律、学習習慣の確立に努めた。</p> <p>○各中学校区ごとに、授業研究、生徒指導、学校保健に関する協議会等を開催している。また、地区ごとの創意工夫を生かした事業を推進し、交流や連携の充実を図っている。</p> <p>○学力向上推進委員会で小中一貫教育カリキュラム系統表を作成し、各校に配布した。</p> <p>○市内全ての中学校にALTを派遣し、質の高い英語教育を推進した。今年度は、諸事情によりALT配置計画に変更が生じてしまった。</p> <p>○中学生夏季英語研修および中学生海外派遣研修では、ALTや大学生、国際交流協会との連携により、様々な視点から充実した研修を行うことができた。</p> <p>○次年度から必修としてスタートする小学校プログラミング教育に伴う研修を、各小学校1名ずつの悉皆研修として実施した。</p> <p>○慶應大学教授によるドローンを利用したプログラミング教育の出前授業を、小学校3校で実施した。</p> | <p>A ○児童・生徒の学力は教員の指導力の向上が何より大切と考えます。授業スタンダードは、先生方の指導力向上の大きな支えになります。特に若い教員に活用して頂きたい。</p> <p>A ○「田村っ子家庭学習の手引き」は子どもにも親にもわかりやすい指導内容になっていて、習慣化するのに大変良いと思いました。</p> <p>A ○英語はこれから生きる児童生徒に必須の教科であります。生きた使える英語のためALTの活用は極めて大切と考えます。</p> <p>A ○子どもの時の耳から入る発音は、知らず知らずのうちに根付くものだと思います。スクールバスの中や校舎内での隙間時間に英語発声を流す。すごく良いアイデアだと思いました。</p> <p>A ○IT時代に生きる子供達には必須の学習内容なので、安心して指導できるよう是非先生方の研修を充実していただきたい。</p> <p>A ○タブレットを導入する事により子供たちの授業に対する姿勢が楽しく効率的になってゆく事を期待します。</p> <p>S ○道徳が教科になり、益々重視されることになりました。先生方の指導への不安を払拭するためにも研修会の充実をお願いしたい。</p> <p>A ○心の指針・行動は「た・む・ら・の・こ」をしてにして、その字から始まる道標が覚えやすく心にずっと入ってくる。唱和しやすいのもすばらしいです。</p> <p>A ○ビブリオバトルというのは興味をひきました。これなら楽しみながら読書が出来、プレゼンの流れも工夫してやれる。おもしろいと思いました。</p> <p>B ○体力の低下が叫ばれている昨今「運動身体作りプログラム」を授業に是非取り入れるような各学校への指導を願いたい。</p> <p>A ○小学生陸上大会は子どもたちが一生懸命頑張っていました。自己記録更新も多くあり、今度は田村地区の大会が開催になれば、また、切磋琢磨があって楽しめます。</p> <p>A ○薬物に対しての正しい知識、食育や肥満、虫歯等健康に対する指導も様々大変だと思いますが引き続きご指導をお願いします。</p> |
| | <p>2 規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します。</p> <p>(1) 道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> □「特別の教科 道徳」授業の充実 ○道徳教育推進委員会の活性化 ○地域素材や人材の活用 <p>□ 行動や心の指針の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「田村っ子のルール10」の実践 ○「児童生徒 心の誓い」(仮称)の策定 <p>(2) 読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 読書意欲の向上 <ul style="list-style-type: none"> ○巡回学校司書の活用(☆) ○校内ビブリオバトルの開催(☆) <p>(3) 体力・運動能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 体力向上策の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○「運動身体づくりプログラム」の実践 ○田村市小学校陸上競技大会 <p>(4) 健康教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 放射線・防災教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○外部講師の活用 □ 食育授業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○肥満や齶食(うしょく)の予防 ○栄養教諭の授業支援 □ 健康教育教室の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○薬物乱用防止教室等の開催 ○歯科・思春期保健教室の開催 | <p>○道徳教育推進委員会において、次年度より「特別の教科 道徳」として全面実施となる中学校を会場とし、授業研修会を実施した。すでに全面実施されている小学校教諭からの参考となる意見が多く出され、よい研修となつた。</p> <p>○今年度、新たに小学校に「心の道標」、中学校に「実践躬行」を策定し、8月に開催した教育セミナーで、地域住民、保護者、市内教職員に示した。</p> <p>○学校司書の巡回日数増により、図書館蔵書の整理・環境整備がより進み、利用者数、読書量が増加している。</p> <p>○各中学校が独自のビブリオバトルを開催した。</p> <p>○小学校陸上大会は、多くの児童が自己記録を更新し、自己の設定した目標を達成することができた。今後とも「運動身体づくりプログラム」を取り入れた体育の授業充実とともに日常の運動量の確保に努めていく必要がある。</p> <p>○今年度より、中学校でもフッ化物洗口事業を実施し、幼稚園・こども園から中学校まで継続して、う歯の保有率や歯周病の改善に取り組んでいる。</p> <p>○肥満傾向出現率が全国平均より高いため、各学校で「運動身体づくりプログラム」を取り入れた体育の授業の充実に努めている。また、学校保健委員会等の組織を活用し、保護者に対して教育面での啓発活動を行つた。</p> <p>○歯科・思春期保健教室等に、外部講師を活用することで、健康教育に関する指導の充実を図ることができた。</p> | |

| 施 策 | | 内部評価 | | 外部評価 | |
|--------------|---|---|---|---|---|
| 1 学校教育の充実 | <p>3 個に応じた教育を推進します</p> <p>(1) 特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 個に応じた学習支援 <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援教育支援員の適切な配置 ○ 特別支援教育支援員の研修 □ 「サボネット田村」運営の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○ サボネットファイルの活用 ○ ケース会議の支援 ○ 啓発セミナーの開催(本年度は実施せず) □ 就学前幼児への早期相談 <ul style="list-style-type: none"> ○ こども未来課との連携 ○ 「すぐすぐ教室」との連携 <p>(2) 実効ある生徒指導の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学校生活への適応指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級生活度満足度（Q-U）調査 ○ 小・小連携・小・中連携交流事業 ○ 異校種間の引継ぎ支援 □ いじめ、不登校への迅速な対応 <ul style="list-style-type: none"> ○ 市「いじめ防止等に関する条例」 ○ 心の教室相談員の配置 ○ SC, SSW派遣事業の活用 ○ 生徒指導 学校訪問 | <p>○全3回の開催の中で、4件の事案についてケース会議を開催し、各園・学校における支援の在り方について適切な助言を行うことができた。</p> <p>○保健課「すぐすぐ教室」に指導主事を派遣し、参加した保護者に対しての相談や就学に関する情報提供を行った。また、希望者と市内小学校の特別支援学級見学を行い、保護者に対して早期から個に応じた支援の必要性を啓発することができた。</p> <p>○学級生活満足度調査(Q-U検査)を年に2回実施することで、児童生徒の心の状態および変容を把握し、個に応じた支援を行うことができた。また、各学級担任の学級経営の充実に資するとともに、いじめや不登校の未然防止に役立つことができた。</p> <p>○心の教室相談員の研修会を実施し、相談員のカウンセリング技能の向上を図るとともに、SSWrからの助言や相談員同士の情報交換を行うことで相談活動の充実を図ることができた。</p> <p>○SC、SSWrの活用が進み、児童生徒、保護者等の様々な事案に対して相談活動及び支援を充実させることができた。</p> | A | <p>○一人一人を大切にする特別支援教育の充実は時代の要請であります。障がいを持つ児童生徒の就学前の発見とケアを益々充実するよう期待します。</p> <p>○個に応じるというのがすごいと思います。それには縦のつながり、横の連携、内容も多種多様になって益々大変だと思いますがよろしくお願ひします。</p> | A |
| | <p>4 地域と共にある学校教育を実現します。</p> <p>(1) 開かれた学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 教育活動の積極的な公開 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校便りやホームページの活用 ○ 「学校へ行こう週間」 □ 学校評価による学校運営の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校自己評価の公開 ○ 学校関係者評価の推進 <p>(2) コミュニティ・スクール制度の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学校運営協議会（学園型）の設立 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会規則の制定 ○ CS準備委員会の研修（☆） <p>(3) 特色ある教育による学校の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 総合的な学習の時間による地域学習 <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材による地域理解 ○ 地域人材によるキャリア教育 <p>(4) 地域や保護者との連携や協力</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 地域ボランティアの積極的活用 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校支援活動事業との連携 ○ 学習支援ボランティアの活用 □ 危機管理情報伝達体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急時「e メッセージ」メール配信システム □ 児童生徒のまちづくりへの参画 <ul style="list-style-type: none"> ○ 田村市こども議会 ○ 中学生F2サミット（☆） | <p>○各校ごとにホームページの工夫と更新頻度を増やすことで、教育活動の公開に努めている。また、全校で学校評価を公表している。</p> <p>○常葉小中学校運営協議会推進委員会を中心となって「田村市学校運営協議会規則」を制定し、令和2年4月1日から常葉地区で、令和3年度からは、全市で実施できるようにした。</p> <p>○常葉小中学校運営協議会推進委員会を立ち上げ、5回の推進会議、2回の先進地視察を行い、令和2年度からの常葉地区における学校運営協議会を設置することとした。</p> <p>○小学校にあっては、地域に関する題材を総合的な学習の時間に位置づけ、地域に関する理解を深めてきた。</p> <p>○特別非常勤講師（県配属）を積極的に活用し、キャリア教育を含めて地域人材を活用してきた。</p> <p>○今年度より、校務分掌に「地域連携担当教職員」を位置づけ、学校支援コーディネーターと連携し、地域ボランティアを円滑に活用できる体制が整った。</p> <p>○台風19号による被災把握や保護者への連絡等に大いに役立った。非常時には不可欠なシステムである。</p> <p>○こども議会の開催により、児童生徒の行政への興味・関心を高めるとともに、主権者教育の充実に資することができた。</p> <p>○F2サミットの開催により、参加した避難12地区及び田村市の生徒のコミュニケーション能力を高めるとともに、ふるさとのよさや自分自身の生き方を見つめなおし、まちづくりへの関心を高めることができた。</p> | A | <p>○教育の信頼を高めるためにも開かれた学校は大切であると考えます。耳の痛い内容にも臆することなくしかし謙虚な対応を望みます。</p> <p>○これだけ少子化が進むと地域ぐるみで子供たちを見守り育していくことがとても重要だと思われます。</p> | A |
| | | | S | <p>○コミュニティスクールは地域の要望を取り入れることができると思います。かつ、学校が委嘱することのないよう規則等の整備を望みます。</p> | S |
| | | | A | <p>○CS制度の導入で色々な角度から学校をサポートして頂くのが大切だと思われます。</p> <p>○子供たちにしてみれば地域の達人も先生なんですね。</p> | A |
| | | | A | <p>○子ども議会やF2サミットは次代を担う児童生徒が地域の課題を深く考える大変良い機会であると思いました。</p> <p>○意義のある子ども議会でした。</p> <p>○子ども議会は、グループに分けて関連づけた議題にまとめたのが良かったと思いました。</p> | A |

| 施 策 | | 内部評価 | | 外部評価 | |
|--------------|--|--|---|--|---|
| 1 学校教育の充実 | <p>5 教職員の資質向上を図ります</p> <p>(1) 教職員の指導力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学校訪問等による授業力向上の支援 ○ 計画訪問・要請訪問 ○ 学校支援指導主事による学校訪問 □ 課題研究による指導力の向上 ○ 学力向上推進委員会の活性化 ○ 先進県研修派遣と専門研修派遣(☆) ○ 学校教育指導委員による個人課題研究 ○ 小中連携による中学校区授業研究会 □ 専門研修の充実 ○ 学びきらめき教員研修会(☆) ○ 幼稚園教諭等研修会 ○ プログラミング教育研修会 ○ 養護教諭研修会 ○ 英語担当者・ALT合同研修会 ○ 常勤講師研修会 <p>(2) 教職員服務倫理の確立と働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 不祥事根絶 ○ 校内相談体制の構築 ○ 服務倫理委員会の充実 □ 勤務の適正化 ○ 勤務実態の把握 ○ 勤務適正化への支援 | <p>○学校支援指導主事2名を各学校に派遣し、教職員一人一人の授業力向上のための支援を継続的に行うことができた。</p> <p>○指導訪問・要請訪問については、可能な限り複数の指導主事を派遣し、教職員の指導力の向上に向けた指導助言にあたった。要請訪問では、事前に指導案検討を行ったりすることによって、指導助言の効果が上がった。</p> <p>○今年度、京都市に3名、福井市に3名の教員を5日間派遣し、研修を行った。先進校の日常の教育活動に触れる機会は大変有意義であった。</p> <p>○各種研修会では、県中教育事務所指導主事、さらに、専門的知見をもつ講師を招聘し、質の高い研修開催に努めた。特に「特別の教科道徳」や英語及び外国語活動は、新学習指導要領の移行期に向け、研修によって教員の専門性を高めることができた。教育セミナーでは、教員短期派遣研修の成果発表を行い、のポイントを市内教職員と考えることができた。</p> <p>○田村市服務倫理対策委員会を3回実施し、校長を通して不祥事防止に関する具体的な手立てを話し合い、教職員への指導に役立てた。</p> <p>○年1回以上外部人材(駐在、保護者等)を活用した校内服務倫理委員会を各学校で開催し、成果を上げている。</p> <p>○部活動指導の指針、アクションプランにより、昨年度より正規の勤務時間を除いた在校時間は減少傾向にある。今後、文部科学省の示したガイドライン(月45時間以内、年間360時間以内の超過勤務)を達成できるようにさらに業務改善を図っていく必要がある。</p> | S | <p>○教職員の資質向上が子供たちの学力向上に最も大切な要素だと思います。先生方の悩みに応える指導主事の派遣は大変望ましいと考えます。</p> <p>○京都の東山泉小中学校長の現場の先生方の話は興味深く聞かせて頂きました。県立高校も学力向上のため中高一貫を作ると発表してましたが、今後一層推進の方向に行くだろうと思われますが、課題も多く大変だろうと思います。</p> <p>○いつ起きるか分からぬという危機感をもち各学校への指導をお願いしたい。自身の人生すべてを水泡に帰すということをいかに自覚をさせるか難しい課題です。</p> | S |

令和元年度事業実施結果・評価

生涯学習課

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

| 施 策 | | 内部評価 | 外部評価 | |
|---|---|--|---|---|
| 1 公民館の活性化を図ります。 | | | | |
| (1) 学級講座の充実 □市民のニーズを捉えた学級講座の企画 ○学級講座の評価と再検討 ○学习ニーズアンケート調査の実施と結果の共有 ○共同開催する学級講座の企画 | <p>○学級講座の事業内容や評価等を各公民館で共有した。母体となる団体(老人会や婦人会)が組織されている地区については比較的活発に教室が開催されている。一方で一般市民への公募型の教室については参加者の確保について苦慮している。魅力的な教室開催の必要性もさることながら、公民館へ来るきっかけづくりを工夫する必要がある。</p> <p>○R1は女性学級(3館合同学習)の事後アンケートを実施し、結果の共有を図った。一般市民を対象とするニーズアンケート調査は実施できなかった。</p> <p>○本年度企画された共同開催事業は、2館合同5回、3館合同6回、5館合同2回を開催した。今後も、各公民館で事業の見直しを図り回数を増やすなどの検討をする。</p> | A ○公募型の教室への参加者を増やすことは本当に難しいと思います。既存の団体の活動に何かしら関連付けて公民館に足を運んでもらう手立てがないものでしょうか。 ○ニーズの促し方は、難しいと思いますが、継続を維持することも大切だと思います。 ○市民が集まりやすい環境づくりを考えなくてはと思います。 | A | |
| (2) 公民館運営の活性化 □市民に愛される公民館づくり ○管理運営体制の検証 ○市民に愛される公民館の管理運営方法の検討 | <p>○都路・大越の行政局併設化、今後予定される船引の生涯学習等複合施設の建設が計画され、管理運営体制の抜本的な見直しが必要となってきている。なお、滝根については、行政局に併設か耐震改修するか、明確な結論に至っていない。</p> <p>○H30.4月から船引公民館を除く4館が2人体制となり、事業の実施や施設の管理運営に苦慮していることから、事業内容の見直しや施設管理の検討が必要である。</p> | B ○予算の制限があると思いますが、職員の人数が減ることは、公民館活動が難しくなることが目に見えています。生涯学習がもつも重視されることを望みます。 ○職員の2人体制にも限界があるのでないか。 ○検討の継続を望みます。 | B | |
| 2 生涯学習の充実 | (3) 生涯学習等複合施設の整備 ○市民の文化・学習活動や交流施設の整備 | | B | B |
| 2 放課後子ども教室事業を推進します。 | (1) 放課後子ども教室推進 □放課後子ども教室の円滑な運営 ○反省を生かした実施校の継続 □コーディネーター及び指導員の育成と確保 ○コーディネーターの育成 ○指導員の育成 ○指導員の確保 □放課後子ども教室の周知及び広報 ○「教室だより」や「めだかの学校通信」の発行 | <p>○継続で実施している8校で概ね円滑に運営できた。</p> <p>○県中地区研修会・県実践研修会・県社会教育研修会に積極的に参加できた。市が企画開催したコーディネーター・指導者研修会には約40名が参加し、活発な意見交換が図られた。</p> <p>○随時指導員の募集を市のホームページや広報などで実施している。</p> <p>○めだかの学校通信は3月に発行予定。各放課後子ども教室だよりの発行は8校で実施。</p> | A ○放課後子供教室は、保護者にとって本当に助けになる事業です。指導員の確保に是非予算と支援をお願いしたい。また、指導員の指導力が大切なので研修の機会を確保してほしい。 ○放課後こども教室が円滑に運営できたのはとても良かった。 | A |
| 3 学校支援地域本部事業の推進を図ります。 | (1) 学校支援地域本部事業の円滑な実施 □学校支援活動事業の推進 ○学校支援地域本部会議及び地域教育協議会の開催 □地域の人材活用体制の整備 ○コーディネーターの育成 | <p>○情報交換会を3回実施。県実践研修会への積極的な参加ができた。</p> <p>○地域をまたいだボランティアの活用を進めている。コーディネーター間の情報交換会の積極的な参加し、全体での共有化を図ることにより広域的な活用を実施した。</p> | A ○人材の確保と育成が一番大変だと感じます。 | A |

| 施 策 | | 内部評価 | 外部評価 |
|---|--|------------|---|
| 1 ボランティアの有効活用 ○ボランティアの確保と資質向上 □学校支援活動事業の周知 ○学校支援地域本部だよりの発行 | ○本部だよりや市ホームページによりボランティアを募集した。 また、コーディネーター研修会に参加し、情報交換により個々の資質向上が図られた。 ○3月に学校支援地域本部だよりの発行予定。 | | |
| 2 生涯学習の充実 4 図書館の機能を充実します。 (1) 図書館の機能充実 □利用促進に向けた図書館資料及び機能の充実 ○ニーズに合わせた蔵書の確保 ○貸出予約の利便化 ○年代別図書コーナーの設置 ○自主事業の充実 ○図書ボランティアの育成 □子どもの強く生きぬく力を育むための読書活動 ○田村市子ども読書活動推進計画の実践と第三次計画の策定 ○子どもが利用しやすい館内環境の整備 ○学習支援機能の充実 ○子どもの読書活動にかかる関係者の資質向上 □図書館事業の周知 ○市民等への広報 | ○図書館資料は、利用者ニーズに合わせるため、蔵書構成のバランスや話題の図書、リクエストなどを十分考慮し購入した。 ○貸出予約システムの導入を引き続き検討中。 ○「お話し絵本講演会」は約55名の参加があり、子供の読書の大切さについて理解を深めることができた。 子どもも司書、子ども語り手養成講座は、おはなしの面白さや読書の大切さ、図書館の仕事などについての子どもたちの理解を深めることができた。 ○図書館や学校支援でのおはなし会の円滑な実施のために、学校支援コーディネーターと協力し連絡調整など中心的な役割を担った。 ○こども未来課の「ブックスタート」事業と連携し、赤ちゃん絵本の紹介や読み聞かせの重要性などを説明し、保護者の理解を深めることができた。その結果、乳幼児(0歳~6歳)の登録者数の増により図書館利用につながった。 ○玄関風除室の整理をし、明るく入りやすい環境を作った。赤ちゃん絵本コーナーを拡充した。 ○団体貸出の実施や、図書館見学、体験学習の受け入れなど積極的に行った。 ○ボランティア連絡会や研修会を通して、情報交換や読み聞かせのスキルアップなどモチベーション向上に努めた。 ○新刊の案内や自主事業等を市政だよりやお知らせ版のほかホームページやSNSなど多様な広報に努めた。 | A | ○ゲームなどに接する現代の子供達には、文字や読み聞かせなどによる自分の頭で再構築したり想像したりする力の育成が重要と考えます。 ○カーリルがカラーで見やすく、分かりやすい。(図書館) ○学力向上には、読解力が極めて大切と言われています。学校の図書館活動のモデルとして市図書館の充実を期待します。 |
| 3 芸術文化活動の推進 1 多様な芸術文化活動を支援します。 (1)芸術文化活動への支援 □芸術文化活動への支援 ○芸術文化団体への支援 ○各地区文化祭や芸能祭への支援 (2)文化センターを活用した芸術文化の提供 □質の高い自主文化事業等の実施 ○文化センター運営委員会の開催 ○小中学校芸術鑑賞教室の開催 | ○文化協会の作品展示会と芸能発表会の開催を支援し、作品展示会は11団体479点が展示され約150名が来場し、芸能発表会は53団体67演目が発表され約720名が来場した。 ○各地区の文化祭・芸能祭実行委員会へ事業補助金を交付することによって、例年どおり開催された。 ○年2回(5月・10月)開催した。 ○小学生芸術鑑賞教室(対象:小学5・6年生)は「ミュージカル鑑賞会」、中学生芸術鑑賞教室(対象:中学2年生)は「JAZZ鑑賞会」で、それぞれおおむね好評であった。小中学生が本物の芸術に触れる機会はそう多くないので、選定する内容に留意しながら継続していく。また、新たに一般市民の方へ2、3階席を提供することで、広く芸術文化の振興に努めた。 | A S | ○文化協会には106団体、2400名の会員が登録されています。田村市全体の文化水準を高めるためにもこのような団体への支援をぜひ拡充していただきたい。 ○地域文化の維持継続に期待します。 ○長い目で続けて行くには支援は大事 |

| 施 策 | | 内部評価 | 外部評価 | |
|---|--|--|------|--|
| | <p>○市民による身近な芸術文化の提供</p> <p>○市民等への広報</p> | <p>○自主文化事業では、「さかなクン～おさかなトークショー」458名、「増田明美氏講演会」520名の集客があった。また、「杉山清貴＆沢田知可子 アコースティックコンサート」はチケットが完売するなど盛況であった。次年度も集客を見込める、ニーズにあわせた事業を計画したい。</p> <p>○文化センターでの催し物や自主文化事業等を市政によりお知らせ版のほかホームページやSNSなど多様な広報に努めた。</p> | | <p>○昨年度の「文珍」に参加したときは100名程度で残念でしたが、今年度の「さかなクン」「増田明美」「杉山～沢田」いずれも盛況で素晴らしい。集客は魅力ある企画と宣伝の効果があった結果と喜ばしい。</p> <p>○色々なジャンルの方をお招きしてのトークショーやコンサートはとても魅力があり良かったです。</p> |
| 4 文 化 財 の 保 存 と 継 承 | <p>1 地域に遺された文化財の保存と継承を推進します。</p> <p>(1) 文化財の保存と継承</p> <p>□文化財の保存と継承</p> <p>○文化財保護審議会の開催と県文化財保護指導者研修会への参加</p> <p>○指定文化財の防災訓練と防火査察の実施</p> <p>○指定文化財の周知</p> <p>○民俗文化の保存と伝統芸能の継承</p> <p>○田村市史シリーズの継続発行</p> | <p>○文化財保護審議会を予定どおり実施。また県文化財保護指導者研修会に参加。</p> <p>○「文化財防火デー」に伴う国指定文化財 堂山王子神社での防災訓練と市指定文化財14カ所の防火査察を例年どおり実施。</p> <p>○指定文化財標柱は「石森稻荷神社の算額」ほか2カ所、説明板は「石橋遺跡」ほか1カ所に設置。</p> <p>○民俗芸能継承団体へ継承活動の支援(補助交付)を行った。</p> <p>○市史9は遺跡をテーマにR2年度に発行予定。</p> | A | <p>○今年も指導者研修会に参加させて頂き各地の文化財保存状況を視察できた。北塩原村の視察では、専門職員が配置されており、本市も是非配属されるよう要望したい。</p> <p>○指定文化財の標柱説明看板の更新の必要なものがあります。</p> <p>○市史シリーズの発行に期待します。</p> <p>○歴史ある文化財の維持と次世代への継承は並々ならぬ努力があると察します。田村市の「宝」をお願いします。</p> |
| | <p>(2) 地域の歴史を学び親しめる施設の整備</p> <p>□歴史民俗資料館の活用と文化財保存施設の整備</p> <p>○歴史民俗資料館の活用促進</p> <p>○文化財保存施設の整備</p> | <p>○歴史民俗資料館の自主事業は「お茶会」120名参加、「正月飾り作り・もちつき」32名参加、「団子さし」34名参加の3事業を継続実施。</p> <p>○既存施設を有効活用し文化財資料館として利用する方向で検討を進めている。</p> | A | <p>○秋の水害で一部資料が被害を受けた。資料は一度ダメなると同じものを復活させることはできない。乾燥等の作業に参加しその感を一層強く持りました。資料保存館の早急な設置を強く希望します。</p> <p>○台風による資料の被害があつたようです。早急に資料館の整備が必要です。</p> <p>○既存施設を利用し、先人の知恵を学びながら昔の伝わる行事・イベントをこれからも続けて行ってほしい。</p> |
| 5 ス ポ ー ツ ・ レ ク リ エ ー シ ョ ン 活 動 の 推 進 | <p>1 幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。</p> <p>(1) スポーツ・レクリエーション大会の推進</p> <p>□運動公園内の施設によるスポーツ交流人口の拡大</p> <p>○国内外からの高校、大学の合宿誘致</p> <p>○県レベル各種大会の誘致</p> <p>○施設のPR</p> <p>○クロスカントリーコースの利活用</p> <p>□田村富士ロードレース大会の推進と参加者拡大</p> <p>○学校・スポーツ団体との連携による参加者の拡大</p> | <p>○県外高校等の合宿(スカイパレス)での利用は5校で5回、1団体で1回の利用で、今後も施設のPRや市内の宿泊施設と連携を深め、大学や企業の合宿誘致活動に取り組んでいく必要がある。</p> <p>○県レベル各種大会の誘致は総合体育館10大会、陸上競技場4大会であった。総合体育館の利用は市内スポーツ団体の利用が多いので、県レベルの大会の誘致は総合体育館以外の体育施設を含めた利用調整をさらに検討する必要がある。</p> <p>○各施設の写真等や事業の周知をホームページなどへ掲載を行っている。</p> <p>○クロスカントリー大会や小中学生を対象とした陸上教室の開催や市民たちがウォーキングなどで活用している。</p> <p>○各地で同様の大会やスポーツ少年団の各種大会が開催されていることもあるが、参加者については、例年同程度の参加人数であり、今後参加者を呼び込むため、大会内容の検討なども必要になつてきている。</p> | S | <p>○恵まれた施設は活用されてこそ価値があると考えます。県内外からの利用はもちろん、市内小中生そして高齢者等市民が日常的に使用できる施設であってほしい。</p> <p>○昨今田村市でも市民の間で2本の杖を使って歩く、ノルディウオーキングが普及しつつあると思われるのですが、クロカンコースでも活用しているのでしょうか。期待します。</p> <p>○疾病対策で中止イベントもありましたが、開催準備など努力されたと思います。</p> <p>○台風19号影響でどうなるのかなと思いましたが、無事開催できて良かったです。</p> |
| | | | | S |

| 施 策 | | 内部評価 | 外部評価 |
|--|--------------------------------|---|---|
| 5 ス ポ ツ ・ レ ク リ エ ー シ ヨ ン 活 動 の 推 進 | □ ふくしま駅伝の参加並びに記録への挑戦 | ○年間を通した質の高い練習、スタッフの確保 | ○一昨年から田村市陸上競技協会が中心となって、クロスカントリーコースを利用し陸上教室を開催して若手アスリートの育成に努めている。 ○継続して上位に入れるのはすばらしい成果です。 |
| | (2) スポーツ・レクリエーションを通じた交流を推進します。 | | ○福島駅伝お疲れ様でした。増田明美さん絶賛のクロスカントリーコースを利用してのトレーニングに来年の走りを期待します。 |
| | □ 小中学生対象のスポーツ大会や講習会等の開催 | ○ソフトボール大会や駅伝大会等の開催 | S |
| | ○スポーツ教室の開催 | ○あぶくま洞大多鬼丸旗争奪児童ソフトボール大会、ビートル駅伝大会等を開催し、市内外から多くのチームが参加され、大会を盛り上げていた。 ○小中学生を対象としたスポーツ教室の開催(バスケットボール、バレーボール、サッカー)実業団の選手による指導いただき素晴らしい教室が開催できた。 | ○子供たちの参加があると保護者の応援等があり、盛況な大会になります。是非多くの子供たちが参加できる大会の誘致や開催にご努力頂きたい。 ○実業団などプロに近い選手の指導は将来への契機になるものです。 ○ビートル駅伝は市内外からも多く参加され盛況でした。常葉町商工祭との抱き合せ良かったと思います。 |
| | (3) 活動を支える充実した指導体制を確立します。 | | S |
| | □指導者対象の研修会や講習会の開催 | ○スポーツ推進委員研修会 | S |
| | ○講習会 | ○県スポーツ推進委員研修会への参加を図った。 ○田村地方スポーツ推進委員講習会「太極拳」を開催してスポーツ推進委員としての資質の向上を図った。 | ○スポーツ推進員の更なる活躍を期待します。 ○増田明美さんの講演会は、トップアスリートが数々の挫折。それを乗り越えての今がある。本物に触れる本物話を聞ける。貴重な時間を頂きました。また、手話通訳も良かったです。 |
| | ○スポーツ講演会の開催 | ○スポーツジャーナリスト「増田明美氏」の講演会を2月に開催した。 | S |
| | (4) ネパールとの交流事業の推進 | | S |
| | □ネパールとの交流事業の実施 | ○事前合宿の実施 | ○ネパールオリンピック・パラリンピック候補選手が2度来日し、陸上競技場等で事前合宿を行った。 ○来日したネパールオリンピック・パラリンピック候補選手が芦沢小学校・美山小学校を訪問し、スポーツ・文化交流を行った。 |

令和元年度事業実施結果・評価

教育総務課

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

| 施 策 | | 内部評価 | 外部評価 | |
|-----------------------|------------------------------|---|---|---|
| 6 教育行政の円滑な推進と効率的運営 | 1 教育委員会の活性化を図ります。 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 開かれた教育委員会 <ul style="list-style-type: none"> □教育委員会の透明性を高める取組 <ul style="list-style-type: none"> ○所管事務の調査、施設等の視察 ○会議運営の工夫と公表 | <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設訪問 R元.9.24(火) 滝根小学校を訪問し学校の概要、児童の活動状況の把握と、滝根幼稚園を併設するための現状把握 ○次年度事業等の勉強会 ○会議資料の事前配布 ○会議日程のホームページ掲載 ○市長との意見交換 2回 | A |
| | (2)教育委員会施策の評価と公表 | <ul style="list-style-type: none"> □教育振興推進プログラムの自己評価 <ul style="list-style-type: none"> ○教育振興推進プログラムの自己評価 ○外部評価委員会の定期開催 ○議会報告と市民への公表 | <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○田村市教育大綱の各施策の重点目標をダイジェスト版として策定 | A |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ○外部評価委員会を年2回開催、外部評価委員が自主的に、各種行事等にを見学など評価を実施 | <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成30年度点検評価報告書の議員への配布及び市ホームページへの掲載 | |
| | 2 教育予算を効果的・効率的に執行します。 | <ul style="list-style-type: none"> (1)教育予算の効果的運用 <ul style="list-style-type: none"> □田村市財政計画をふまえた効率的な予算執行 <ul style="list-style-type: none"> ○教育大綱に基づく重点事業の設定 ○予算編成ヒアリングの実施 | <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○田村市教育大綱の各施策の重点目標をダイジェスト版として策定 | A |
| 3 人材育成を推進します。 | (1)高校生・大学生の就学支援 | <ul style="list-style-type: none"> □奨学金制度の効果的な運営 <ul style="list-style-type: none"> ○奨学金制度の周知 | <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内各学校、市の高校生が在学する高校への制度周知依頼(24校) | A |
| | (2)高校生の海外留学支援 | <ul style="list-style-type: none"> □海外留学支援制度の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○海外留学支援制度の周知 | <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市の高校生が在学する高校への制度周知依頼(24校) | A |
| 4 教育環境の整備・充実を進めます。 | (1) 田村市総合計画に基づく快適で安全な教育環境の整備 | <ul style="list-style-type: none"> □教育活動の場にふさわしい環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ○各学校の経年劣化の状況をふまえた計画的な修繕 | <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○船引南中・船引中・都路中のトイレ洋式化工事、船引南小シャワー室新設工事、滝根中防排煙設備工事、船引小学校校舎増築工事、滝根幼稚園(滝根小学校校舎)整備工事、常葉小学校連絡通路建設工事をはじめ、緊急性の高い順に計画的に修繕等を実施 | A |
| | | | <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○洋式トイレの設置は、是非早急に実現願いたい。児童生徒の日常生活に直結する大事なことがあります。危険個所の改修も最優先でお願いしたい。 | |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ○洋式トイレは、家庭では普通になっているので学校のトイレも洋式化が進んでいるのですね。ニーズに合わせた環境作りに素早く対応しているのも素晴らしいです。 | |

| 施 策 | | 内部評価 | | 外部評価 | |
|-----------------------|---|--|---|---|---|
| 6 教育行政の円滑な推進と効率的運営 | (2)学校の安全管理と事故防止 □児童生徒の安全な学校生活のための環境整備 ○通学路の点検と危険箇所の解消 ○安全点検後の迅速な修繕 ○防火管理体制の充実 | | B | ○児童生徒の安全確保がすべてに優先されることを、学校管理職者に徹底させ、かつ危険箇所の改修も最優先でお願いしたい。 ○通学路にあたる車道・歩道の狭さは、どうしようもないでの、通学時にケガの無いよう安全点検は引き続きお願いしたいです。 | B |
| | (3)児童生徒の通学支援 □児童生徒への費用的支援 ○遠距離通学児童生徒への通学支援 ○自転車通学への通学支援 | ○通学路に面したブロック塀の安全点検 ○各幼・小・中に防火管理者を設置し、防火管理体制を確立(新規管理者には、講習会受講による防火管理資格者の確保) | A | ○遠距離通学児童及び自転車通学児童への補助は有り難いです。 | A |
| | 5 教育効果を高めるための学校規模の適正化を進めます。 (1)複式学級解消に向けた学校規模の適正化推進 □学校規模の適正化推進 ○各地域の現状把握と説明機会の確保 | ○遠距離通学児童生徒への市補助金交付要綱に基づく負担軽減 小学生7名 中学生11名 ○自転車通学者へのヘルメット購入補助により交通事故防止及び事故発生時の重症化防止 7名 ○通園通学のあり方に関する検討会でスクールバスの利用基準について教育長へ提言 ○園児・児童・生徒のスクールバス乗車の安全確認(職員による試乗) | A | ○複式解消は大きな重要課題です。しかし学校が地域の核の一つであることを踏まえ地域の意見を十分尊重した統廃合であってほしいと念願します。そして何より少子化対策とその前の結婚するカップルをいかに増やすかが喫緊の課題。 ○少子化と言われて久しく経ちますが小学校の良いところと中学校の良いところを融合させる小中一貫というスタイルが急速に進むのではないかと推測されます。今後期待したい。 | A |

IV 結びに

VI 結びに

平成27年4月に「田村市教育大綱」を策定し、基本方針である「未来を担う人づくり」に向けて、次の6つの重点施策を掲げました。

- 1 学校教育の充実（豊かな人間性、社会性を持ち、21世紀をたくましく生きる園児・児童・生徒の育成）
- 2 生涯学習の充実（豊かな人間性を育む生涯学習の振興）
- 3 芸術文化活動の推進（豊かな人間性を育む文化の振興）
- 4 文化財の保存と継承
- 5 スポーツ・レクリエーション活動の推進（元気で活力をはぐくみ、心をうるおす健康・体育・スポーツの振興）
- 6 教育行政の円滑な推進と効率的運営

この重点施策を実現するため、担当課ごとに「教育振興推進プログラム」を作成し、具体的な事業内容を設定して教育振興の充実に取り組んでおります。

また、田村市教育委員会では、「地域が育て地域で育つ市民参加の教育」を実現するため、事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、その結果を市民の皆さんに公表することを通して、より効果的な行政を推進してまいりたいと考えております。

教育の目的は、「人格の完成」や「生きる力の育成」を目指すものであり、その成果を数値で示すことは難しい面もあり、事業実施の結果や予算の費用対効果が直ちに表れるものばかりではありません。

しかしながら、適切な指標をあげ、点検・評価及び改善しながら、課題解決に向けて実践することは不可欠であります。数値に表れにくい子どもの変容や意欲・姿勢についても可能な限り取り上げ、継続的に調査・考察・分析を行い、報告書の作成に努めました。

さらに、今回の点検・評価にあたっては、その評価の客観性を確保する観点から、外部評価委員として次の学識経験者に依頼し、ご意見をいただきました。

三 輪 幹 治 元船引小学校長
赤石沢 晶 元都路公民館長
佐 藤 よしえ 元保育士

各学校の教育活動の充実と教育委員会所管の事務事業の推進は、一体のものであります。田村市教育委員会といたしましては、今回、外部評価委員からいただきました評価や意見を教育施策に生かしてまいります。

更には、日頃より保護者や地域の方々からお寄せいただいている評価やご意見を大切にし、今後とも各学校等における教育活動の充実にために、教育施策の点検・評価を実施し、適切な手立てを講じながら、効果的な教育行政を推進してまいります。

